令和4年度 教育旅行推進強化事業

沖縄修学旅行商品造成支援に係る調査

報 告 書

目　次

■第１部「沖縄教育旅行商品造成に係る調査」

第１章．調査概要.....3
第２章．教育旅行と探究学習.....5
第３章．教育旅行の探究学習について聞き取り調査（県外旅行会社・有識者）.....11
第４章．県外旅行会社アンケート調査.....16
第５章．県外校アンケート調査.....25
第６章．県内事業者アンケート調査.....38
第７章．調査結果まとめ・解決策の提案.....54
第８章．アンケート票.....57

第１章.調査概要

（背景）

沖縄県における教育旅行の入込数は、平成17年に初めて40万人を突破し、平成23年には東日本大震災による旅行先の振替の影響もあり、校数、人数ともに過去最高となった。

その後は概ね横ばいで推移していたが、令和３年の入込数は新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により381校70,038人となり、大幅に減少した。

教育旅行をめぐる近年の動向として、新型コロナウイルス感染症拡大で、都道府県をまたいでの教育旅行や航空機移動での教育旅行は、感染リスクが高まるという事から、行先を近隣に変更し規模を縮小して実施する学校が増加した。これは、地元の魅力を再発見する機会に結び付けた新たな教育旅行となっており、これまで教育旅行を誘致していなかった地域でも近距離で完結できる教育旅行のプランを積極的に提案している。

また、学習指導要領の改訂により、小・中・高の学校教育では、「探究」が重要視され、学校ではこれと紐づけ教育旅行を探究の場として位置付ける機運が高まるなど、教育旅行に対するニーズは多様化するとともに変化してきていることがうかがえる。

（目的）

「時代の潮流」を踏まえ、県外学校や旅行会社の商品ニーズ調査・情報収集を実施し、分析を行うとともに、県内事業者の受入体制の現状及び受入体制構築に向けた課題等の調査分析を実施。

その調査結果から、沖縄教育旅行における「探究学習プログラム」の充実を図る手法等を抽出し、県内事業者に提示することにより受入体制の整備と教育旅行誘致を促進することを目的とする。

■調査期間

令和4年7月15日（金）～令和5年2月15日（水）

■調査対象［回答/調査依頼件数］

・県外旅行会社［ 31/ 31件］
・県外学校　　［224/620件］
・県内事業者　［ 66/130件］

■調査内容

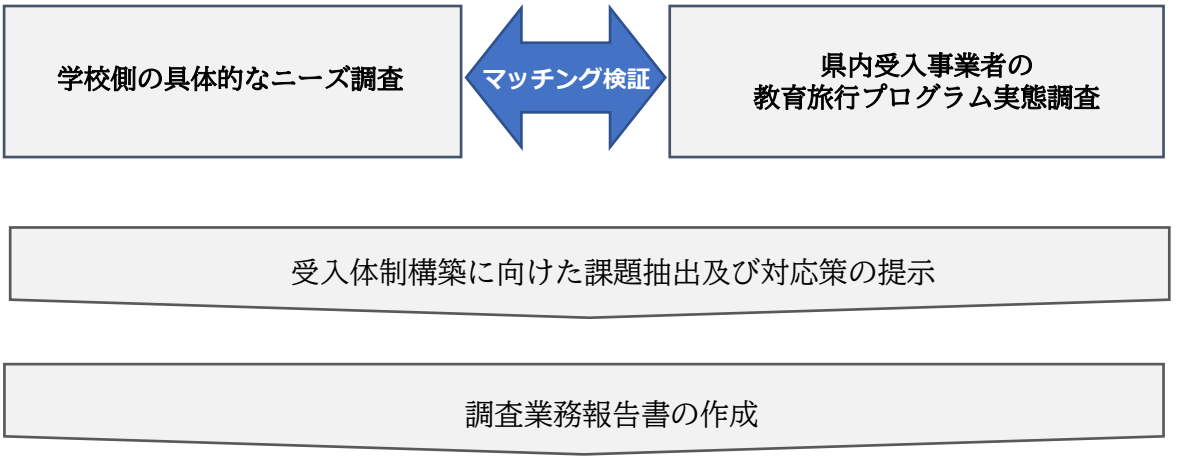
・学校側の具体的なニーズ調査
（探究学習の現状教育旅行の実態）

・県内受入事業者の教育旅行プログラム実態調査
（教育旅行の探究学習プログラムの実態・実施意向）

調査フロー

本事業における調査は、県外学校側のニーズを把握するため、首都圏を中心に学校を選定し教育旅行の実態や学校のニーズ調査を行う。また、学校側と受入側双方の状況を把握するため県外旅行社担当者及び県外教育旅行関係機関へ聞き取り調査を行い、今後の教育旅行の新たなスタイルを抽出。

同時に、県内企業等が教育旅行の受入に際してどのように取り組み、どのような課題意識をもっているか等の実態調査を行い、ニーズとのマッチングを検証。これらの調査結果を踏まえ新たな沖縄らしいコンテンツ・商品造成へつなげる。

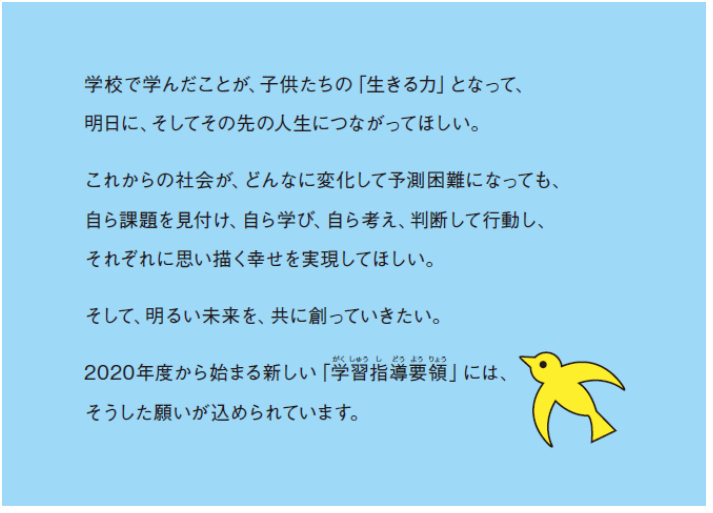


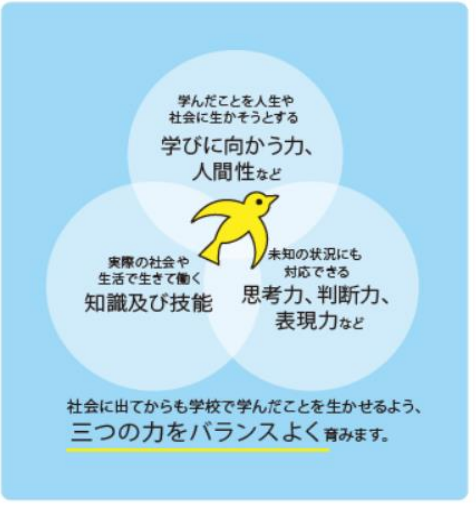
（１）探究学習が必要とされる背景

現代は、グローバル化、ビッグデータや人工知能（AI）の活用などによる科学技術の発展、新型コロナウイルス等未来を予想することが困難な時代に入っているといわれ、今後も、社会の変化はさらに進むと考えられる。

このように社会の変化が激しく、未来の予測が困難な時代の中で、変化に対応し、社会で生き抜くために必要な資質や能力の育成が重要視され、文部科学省では、「生きる力」の育成を目指し、学習指導要領を改訂した。新学習指導要領は、小学校では2020年度、中学校では2021年度から全面実施、高等学校では2022年度の入学生から年次進行で実施されることとなった。

新学習指導要領では、各教科などの学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育んでいくことを目指し、探究学習で学んだ思考のプロセスを社会でいかすことを目的としている。





【参考資料】

平成28年12月の中央教育審議会答申において、学習指導要領等改訂の基本的な方向性が示されるとともに各教科・科目等における改訂の具体的な方向性も示された。

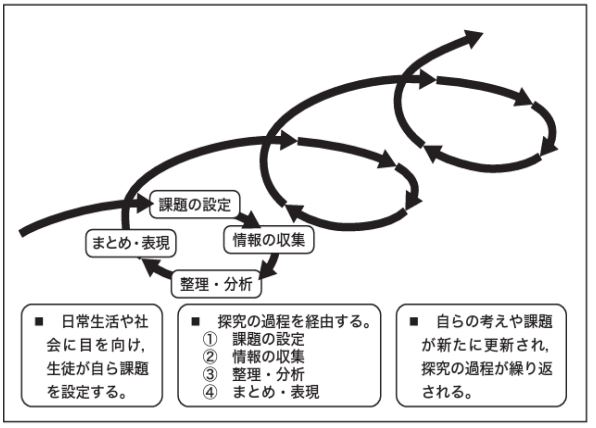
今回の総合的な学習の時間の改訂はこれらを踏まえて行われたものである。

（2）探究学習の定義

探究学習とは、生徒一人ひとりが、日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて自ら課題を見付け、解決に向けて自ら考え、情報を収集・整理・分析。 物事の本質を自己との関わりで探り見極めようとする一連の学習活動のこと。

他者と意見交換、協働しながら考えを出し合う等し、考えや意見などをまとめ・表現しそこからまた新たな課題を見付け、更なる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返し行う。

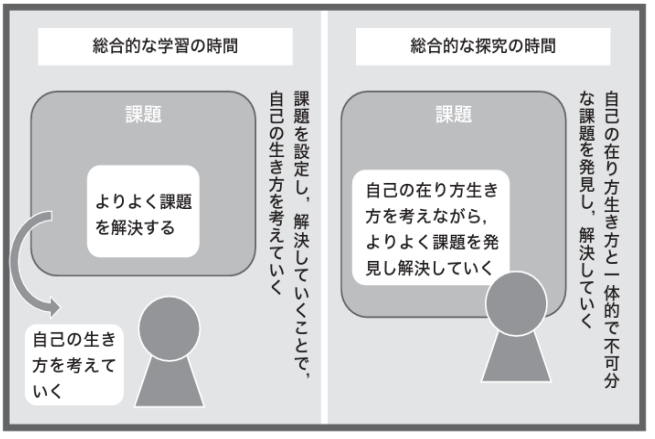
探究における生徒の学習の姿



出所：高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総合的な探究の時間編

新学習指導要領では、高等学校の教育課程における「総合的な**学習**の時間」を「総合的な**探究**の時間」に変更した。「総合的な学習の時間」は、課題を解決することで**自己の生き方を考えていく学び**であるのに対して、「総合的な探究の時間」は、**自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学び**を展開していく。

課題と生徒との関係（イメージ）



出所：高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総合的な探究の時間編

高等学校においては、小・中学校における総合的な学習の時間の取組を基盤とした上で自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら「見方・考え方」を組み合わせて統合させ働かせながら、自ら問いを見いだし探究する力を育成するとしている。

（３）教育旅行と探究学習

文部科学省では、特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現を示しており、総合的な探究の時間との関連について、

「総合的な探究の時間における学習活動により、特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な探究の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えることができる」としている。※学習指導要領第1章総則第2款の3の（３）のケより

小・中・高校で新学習指導要領が施行され、各種報道においても教育旅行で注目されるテーマとして、「探究学習、問題解決型学習」が挙げられており、今後、「探究の場としての教育旅行」ととらえる学校が増え「探究」につながる旅行プログラムへの需要が高まるものと推測される。全国的にも教育旅行における探究学習プログラムの提案が活発化していることがうかがえる。

探究・問題解決型学習につながる教育旅行

本紙では、今後の「教育旅行」に関する学校の取り組みを把握するため、今年2～3月にかけて、全国の学校3000校（小・中・高各1000校）を対象にアンケートを実施し、531校から回答を得た。まず、新型コロナが長期化する中で、令和3年度の修学旅行の実施については「実施した、これから実施する」が499校と回答の大半を占め、修学旅行に代わる行事を実施した学校を含めて「実施しなかった学校」は31校と少なかった。

ただし、訪問場所については8割近くが行き先を変更していることから、近隣県に場所を移したり、日数を短縮したりして感染予防に努め、何とか修学旅行を実施した学校が多かったことが推測される。その上で、令和4年度は「コロナ禍以前と同じ時期に実施」が415校に上り、今年こそは従来通りの修学旅行に戻したいと考える学校が多くなっている。

一方、修学旅行で注目している学習テーマでは、「探究学習、問題解決型学習」と答えた学校が309校と最多。座学では得られない体験を子どもの発見や気づきを生む探究の場として活用したい学校が多くなっている。また、次位は「SDGs」の228校。新学習指導要領が目指す「持続可能な社会の創り手の育成」に向けて、以前は多かった「平和学習」や「世界遺産」よりも関心が高まっているようだ。

出典：日本教育新聞（令和３年6月21日掲載）

新たな教育旅行に関する参考記事

（3）　2022年(令和4年)4月4日（月曜日）　週刊観光経済新聞　第3種郵便物認可　第3121号

高等学校の教育旅行 特集

学習指導要領の改訂により、小中高の教育では「探究」がより重視されている。高等学校では、「総合的な探究の時間」が「修学旅行」でも、今後、探究学習を取り入れた活動が活発化する見込まれる。高等学校の修学旅行はどう変わるのか。また、探究学習を取り入れた修学旅行プログラムとはどういった形なのか。文部科学省初等中等教育局と日本修学旅行協会に聞いた。

探究学習を取り入れた修学旅行

文科省 初等中等教育局に聞く

課題発見し解決する力を育成

学習指導要領改訂で重視

―高等学校で「総合」を用いた学習だけではなく、生徒が自ら課題を設定し、必要な情報を収集・分析し、情報を整理、分析し、問題を見つけ、まとめ、発表・表現する力を育てていく、問題解決力を育てるところに特質がある。

―修学旅行でも今、「探究」だ、今回の改訂後、探究学習が重視されていくのだろうか。

長田氏　修学旅行は、学習指導要領の特別活動の種類「旅行・集団宿泊的行事」に位置付けられている。なぜ修学旅行をするのか。それは学習指導要領に明確に示されていて、平素とは異なる生活環境の中で日頃の学校での学びを生かす。また、修学旅行に行くことによって学校での勉強や生活に役立つ意義があるとされている。

学校教育の中でいわゆる教科書がない模範解答もない実際の社会が必要となっているのであれば、当然、修学旅行の中でもその探究を意識しなければならない。

能見氏　総合的な探究の時間では、他の教科や特別活動などと身に付けた資質、能力を関連付けることを想定している。

特別活動の方でも、「行事」の内容に応じて各教科や総合的な探究の時間等との関連を図ることになる。

コロナは健康に大きな影響を及ぼす。最終的には生徒や教員、行事に関しておいて、より長い人間関係を形成することになる。

文科省としては、特に現場に、コロナは健康に大きな影響を及ぼす。最終的には生徒や教員、行事に関しておいて、より長い人間関係を形成することになる。

―その修学旅行だが、コロナ禍で延期、中止する事態になっている。文部科学省では、学校関係者に対して、「修学旅行は、子供たちとってかけがえのない貴重な思い出となる有意義な教育活動であるため、その心情等を考慮し、適切な感染防止策を十分講じた上で、その実施について特段の配慮をお願いしたい」と要望している。

同局児童生徒課課長補佐・義務教育企画官・齋藤氏「コロナ発生直後から、文科省としては、各学校設置者に向けて、修学旅行の実施に向けた配慮をお願いしている通知を何度か出してきた。修学旅行は、日常の学校生活とは異なることが多くあり、今までは感染症を書いて終わるという感じだった。学習指導要領の解説には課題解決的な学習を発展的に繰り返すことが探究学習の狙いだと書かれている。探究学習は本後の学習活動のとても重要だ。

―探究学習は修学旅行でより展開されていくのか。

竹内氏　修学旅行では「見る」「体験する」「話す」がすごく大事な要素だ。見るというのは見学で、これはずっと行われてきた。体験は、特別活動や総合的な探究の時間も非常に重視されている。今後は探究学習の中で話すということが非常に大事になってくると言ってきたが、現地の人などと話をする、課題を解決するためにインタビューや調査活動をする、そういったいろいろな形が考えられる。これは対話的な学びにもつながってくる。

話すことを中心とする4人に分かれ学生全体とかでの話合いは無理なので、班別活動やグループ行動といった少人数での活動が現地で活発に行われるようになる。

―修学旅行で実施されている生徒学習プログラムは、沖縄ではSDGsプログラムが活発に作られている。

竹内氏　例えば、沖縄では美しい海が地球温暖化によってどんな影響を受けているのか、それが人々の暮らしにどんな形で関わってきているのかといった大きな課題を、高校生が自分の持っている課題を解決する情報収集活動にもなる。

―環境や自然を題材とした探究学習は。

竹内氏　例えば、沖縄では、SDGsプログラムの中で、ビーチクリーンなどの体験活動を通して現在のごみが海を汚すことができる。また、博物館の学芸員や高校生に話をしながら、生徒が自分の持っている課題を解決する情報収集活動をする。

―修学旅行協会は、探究活動を通して、学校に言い方を教えてほしい。

竹内氏　長崎に行くとかそこを選択するかどうかは、学校が決めるのだが、ではその中でどんなことをするという形でのサポートをしてもらいたい。

―修学旅行の探究学習グラム化してほしい。

竹内氏　それから、事前学習や事後学習に対して、さまざまな資料を提供する。オンラインでもいいので、生徒と現地の人が交流するという形でのサポートをしてもらいたい。

―修学旅行でも、今、心情等を考慮し、適切な感染防止策を十分講じ、報を整理、分析する「まとめ、表現する」の四つの大きな段階からなる。

日本修学旅行協会理事長・竹内秀一氏「探究学習は、『課題を設定する』『情報を収集する』『情報を整理、分析する』『まとめ、表現する』の四つの大きな段階からなる。日本修学旅行協会理事長・竹内秀一氏「探究学習は、『課題を設定する』『情報を収集する』『情報を整理、分析する』『まとめ、表現する』の四つの大きな段階からなる。

―探究学習が重視され、高等学校の修学旅行はどう変わるか。

日本修学旅行協会理事長・竹内秀一氏「探究学習は、『課題を設定する』『情報を収集する』『情報を整理、分析する』『まとめ、表現する』の四つの大きな段階からなる。

―探究学習が重視され、高等学校の修学旅行はどう変わるか。

日本修学旅行協会理事長・竹内秀一氏「探究学習は、『課題を設定する』『情報を収集する』『情報を整理、分析する』『まとめ、表現する』の四つの大きな段階からなる。

―最後に、文科省と学校現場者に伝えたいメッセージは。

長田氏　学校生活という中で、学校生活の中で、修学旅行を実施するのは、やはり学校の教育活動の一環であるとの認識である。

―社会との関わりを考える探究学習は。

竹内氏　ものづくり体験などが、それは結構、学校が行う体験学習の中で、行うことも重要である。

―修学旅行は思い出づくり、一生考えてほしい。

竹内氏　本来は学生だけに行う。修学旅行の位置付けは、また、総合的な探究の時間と関わりを持ってくれれば、より深い学びができる。

―では、受け入れ地側に対する要望は。

竹内氏　話すということが学び入れ側側に対するもっと明確に行ってほしい。

―修学旅行の目的は、学びのつながりを生き生きと感じるチャンスを与えることになるのもしれない。だから、安易な中止にはなく、さまざまな工夫をして修学旅行を実施してほしい。

竹内氏　学校生活という中で、修学旅行を体験することによって教師と生徒に与えてほしい。

竹内氏　学校生活の中で、生徒にとってこの時しかできない体験であり、非常に教育効果が高い教育活動であるとの認識である。コロナの状況であっても実施に向けなければいけない、修学旅行は、工夫してほしい。

齋藤氏（左）、長田氏（中）、能見氏（右）

竹内氏

沖縄恩納村でのサンゴに関する学習の様子
（写真提供　恩納村観光協会）

出典：観光経済新聞（令和４年４月４日掲載記事）

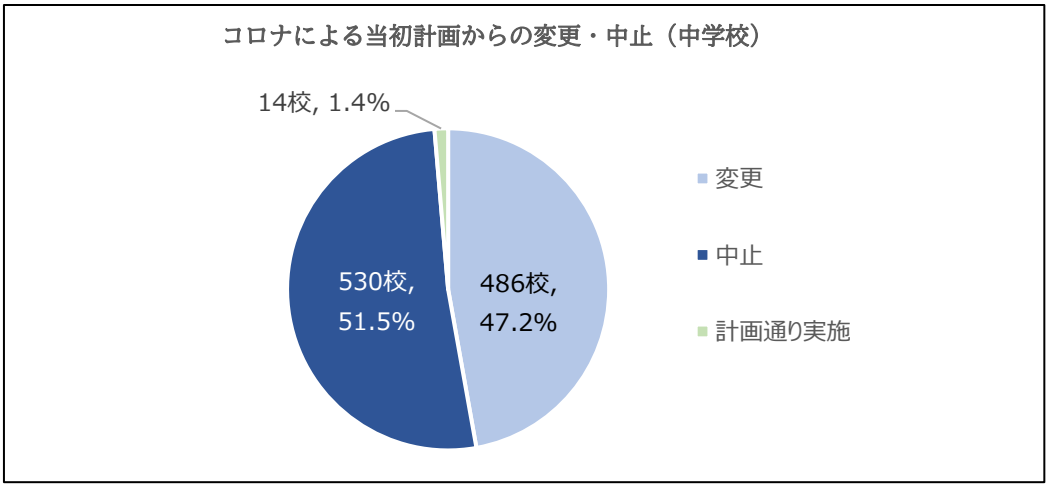
（１）教育旅行市場の動向調査（2020年動向）＊教育旅行年報「データブック2021」より

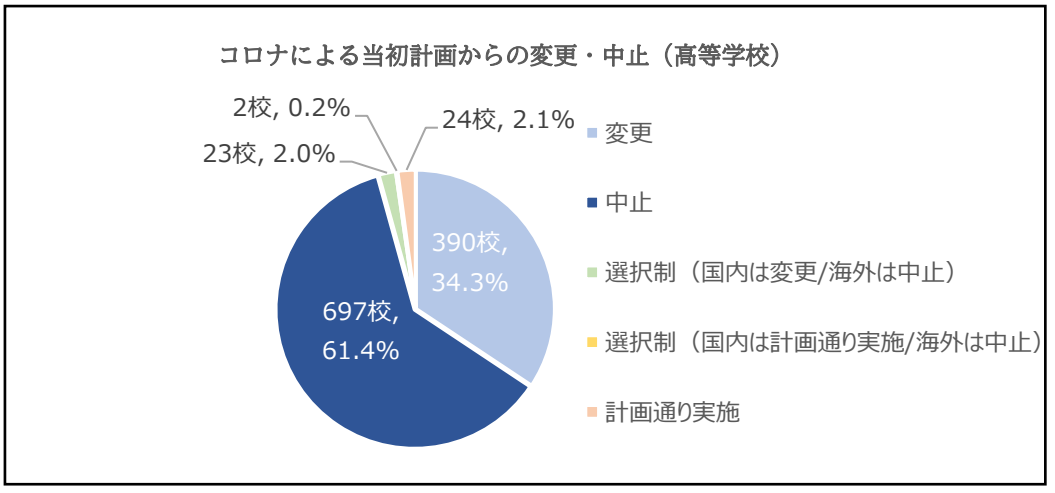
2019年末に発生した新型コロナウィルス感染拡大により、2020年の教育旅行は中止する学校が相次いだ。
2021年には、文部科学省より「修学旅行は学習指導要領に定める特別活動の中の学校行事に位置づけられ、子供たちにとってかけがえのない貴重な思い出となる有意義な教育活動であるため、その教育的意義や児童生徒の心情等を考慮し、適切な感染防止策を十分講じた上で、その実施について特段の配慮をお願いしたいと考えています」「感染状況を見極めながら、仮に当初の計画どおりの実施が難しい場合であっても、近距離での実施や旅行日程の短縮など実施方法の適切な変更・工夫について検討するようお願いします。」などの通達が出され、コロナ禍における教育旅行は、旅行先や実施時期・日数など実施形態を変えて行われた。
旅行会社各社へのヒアリングより、2022年は、全国的に2019年の80％～90％程度まで回復傾向にあるとされている。

①コロナによる当初計画からの変更・中止状況

中学校では、「変更が47.2％」「中止が51.5％」であった。高等学校でも「変更が34.3％」「中止が61.4％」で、いずれも90％以上の学校が、新型コロナウィルス感染拡大の影響で、当初の計画からの変更・中止を余儀なくされた。

出典：教育旅行年報「データブック2021」（公益財団法人日本修学旅行協会）





②旅行先上位10位（高等学校）

コロナ前まで、旅行先の1位は「沖縄」であったが、コロナ禍2020年は2位となった。これは、コロナ禍における教育旅行の日程短縮・近場傾向など実施形態の変化によるものと考えられる。

2019年には9位であった長崎と11位の広島が2020年には長崎1位、広島3位に入ったことは教育旅行における「平和学習」の実施意向が高いことの表れであると考えられる。

順位			旅行先
2018年	2019年	2020年	
10	9	1	長崎
1	1	2	沖縄
9	11	3	広島
4	2	4	大阪
7	7	5	北海道
8	8	6	兵庫
11	10	7	福岡
3	3	8	京都
16	18	9	熊本
17	16	10	鹿児島

出典：教育旅行年報「データブック2021」（公益財団法人日本修学旅行協会）

③教育旅行における探究学習及びSDGs学習

新型コロナウィルス感染拡大の影響で、教育旅行の実施形態は様々な変更を余儀なくされ、主体的な学びの場である体験活動、班別行動、事前・事後学習プログラムにも影響が出ているが、教育旅行における探究学習及びSDGs学習の重要性について、教育旅行年報「データブック2021」には下記の通り記されており、今後の教育旅行プログラムへのニーズも高まるものと考える。

「新学習指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学び」
につながる学びをSDGsの視野も踏まえて修学旅行時に実践する
そうした方向性の上での体験活動の重要性を考えると、学校・旅行会社・現地実施機関の
相互の協力の下に、実施の体制とより意義のあるプログラムや
実施体制への努力を継続していくことが、引き続き求められていると言えよう。

第３章.教育旅行の探究学習についての聞き取り調査（県外旅行会社・有識者）

１）調査概要

教育旅行を取り巻くトレンドや探究学習に関するニーズを把握するため、教育旅行に関する調査・研究、情報収集を行っている日本修学旅行協会と全国修学旅行研究協会、および主要旅行代理店へオンラインによる聞き取り調査を実施した。

（旅行会社）

調査日	聞き取り先
2022年7月7日	(株)日本旅行　ソリューション事業本部　教育事業部
2022年7月8日	(株)近畿日本ツーリスト　教育・団体旅行部　教育旅行部
2022年7月8日	東武トップツアーズ(株)　営業統括本部　教育事業推進部
2022年7月14日	(株)JTB　ツーリズム事業本部　事業推進部　法人営業チーム

（有識者）

調査日	聞き取り先
2022年9月29日	公益財団法人　日本修学旅行協会
2022年10月28日	公益財団法人　全国修学旅行研究協会

2）調査結果

①学校側のニーズ

学校側が教育旅行に求めるものとしては、各学校の教育理念に沿った「学びの実現」である。教育旅行は、あくまでも授業の一環であり、学びを深める場となっている。

2020～2022年に学習指導要領が改訂されたことにより、小・中・高の学校教育では、「探究」が重要視され、学校ではこれと紐づけ、教育旅行を「探究的学習の実践の場」として位置付ける機運が高まっている。

学校側から旅行社等への教育旅行に関する仕様書内にも「探究要素が含まれる方が望ましい」などが記載されるようになっているという。これらのことにより、教育旅行を探究学習の場と捉える学校は、今後ますます増加するのではないだろうか。

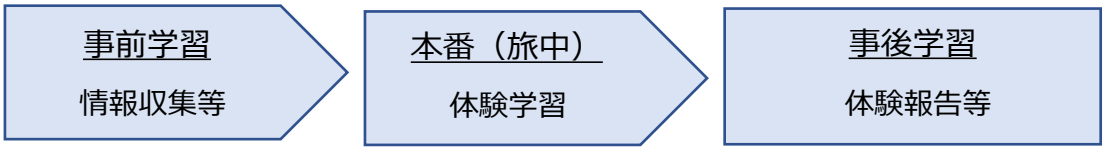
しかし、高等学校では2022年からの実施となっていることや学校現場では、様々な学習プログラムの対応等がある事から、「まだまだ探究学習まで手が回らない」「具体的に何をしたら良いかわからない」など、まだ具体的な方向性を模索中の学校も多く、旅行社等へ「事前学習～現場体験～事後学習」の一連のプログラムの提案を求める学校も少なくないという。

高等学校では、「総合的な**学習**の時間」が「総合的な**探究**の時間」となったことより、「探究」に使える時間数が増え、学習活動を発展的に繰り返すためにも重要であることより、教育旅行における事前・事後学習にも時間を充てる事ができる環境になったと言われる。このことよりインプットしたことを自分の知識として消化するアウトプットまでの一連の活動により、探究学習を充実させる学校が増えるものと考えられる。

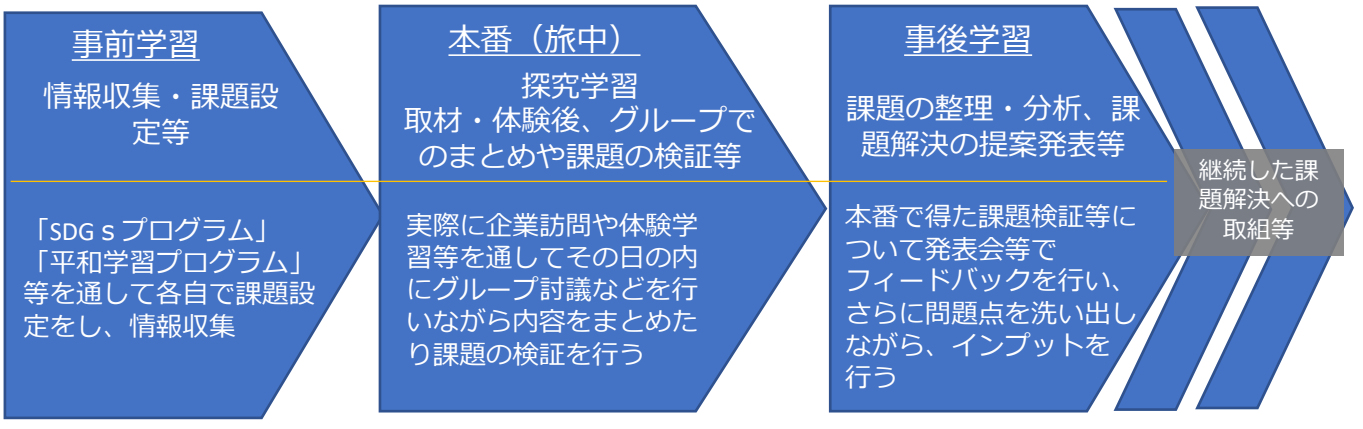
探究学習は、学校側が大枠の課題を設定した後、生徒自身（グループ等）が課題を設定。生徒の興味関心は多岐にわたる事より、生徒が設定する様々な学習課題に対応出来るコンテンツを有するエリアは、教育旅行先としてポテンシャルが高いと言う。

今後は、単なる体験に終わってしまうプログラムについては、ニーズが減少することが予測されている。教育旅行を誘致促進する為には、学校側のニーズを捉え、既存のプログラムに探究要素の視点を加えるとともに、事前学習・事後学習を含めた一連の「探究学習プログラム」を造成し、提供する必要がある。

●新学習指導要領改訂前



●新学習指導要領改訂後



②プログラム造成の現状

学校側の教育旅行に求めるニーズの変化により、全国的に地域資源を活用した探究学習の一連のプログラム造成に積極的に取り組む自治体・受入事業者が増加している。

旅行会社各社でも新学習指導要領改訂を見据え、各地と連携し、「事前学習～現場体験～事後学習」の一連の探究学習プログラムの造成に取り組んでいる。また、学習教材会社や教育関連機関と連携し、一連の流れを取り入れたワークブックを制作するなど、学校側が活用しやすい教材を提供するなど充実した教育旅行の実現を目指した様々なプログラム造成の取組が活発化している。

世界的課題であり、自身の日常や行動にも深く関わるSDGsの目標から課題設定する学校も多く、探究学習の中においてSDGsを取り扱うことで学びが深まる事もあり、教育旅行のプログラムとして「探求×SDGs」商品造成も積極的に行われている。

③先進事例

教育旅行を誘致する為、全国の自治体で既存プログラムや地域資源を活用した「事前学習～現場体験～事後学習」の一連のプログラム造成が積極的に行われている。

【長崎市】長崎市と純心大学の連携

平和学習に探究要素を取り入れ実施

●事前学習：純心大学の学生による講話（オンライン）
●現地体験：平和ガイド案内の下、被爆遺構や平和関連施設がある平和エリアを見学
（7～8名程度のグループで実施）
見学終了後、宿泊先でワークショップ（平和ガイド等がファシリテーターとなり
クループメンバーでディスカッション）
●事後学習：グループ発表・まとめ

【奈良県】奈良県と奈良大学の連携

歴史・文化を学ぶことを中心に実施してきたが、視点を変えた プログラムを実施

●事前学習：奈良大学の講師による「奈良のシカとの共生」の講話（オンライン）
➡問題提起
●現地体験：奈良公園等　自然や他者との共生を考える時、奈良の鹿と人間の暮らしぶりから
「共生」のヒントを探る
●事後学習：グループ発表・まとめ

【京都府】地域との連携

「なんで？がいっぱい，京都と学ぶSDGs『Q都スタディトリップ』を立ち上げ
SDGsに関する探求 学習プログラムを実施。

●事前学習
導入として、SDGsや京都でSDGsを学ぶ意義を動画等で紹介
SDGsの17のゴールと関連する20件の学習コンテンツとその提供企業・施設を紹介
学習の補助資料「Q都スタディーシート」を提供
※コーディネーターとともに学校での事前学習から旅行中の体験学習・交流，事後学習までじっくりと学べる
コンテンツを提供

●主な内容
1200年にわたり様々な危機に直面しながらも1つのまちであり続けた世界でも稀有なまち「京都」をSDGsのヒントとなる舞台として紹介等

④沖縄県に対する評価と課題

沖縄には、平和学習・自然体験・異文化理解・環境学習等、学校の様々な要望に応えられる魅力あるコンテンツが数多くあると旅行関係者は高く評価している。また、学校側も沖縄なら様々な学びを実現できると感じ、多岐にわたる生徒の興味関心にも応えられるエリアであるとしている。しかし、探究学習に対するニーズが今後ますます高まり、プログラム内容が重視されること、他のエリアよりも移動費のかかる沖縄への教育旅行では、「単なる楽しい体験」だけの提供にとどまってしまうと「沖縄離れ」の可能性がでてくるであろう。

沖縄にある既存の豊富なコンテンツに「探究」の視点を加えた商品を造成することで、沖縄のポテンシャルはさらに高まり、学校側のニーズも高まるものと考える。

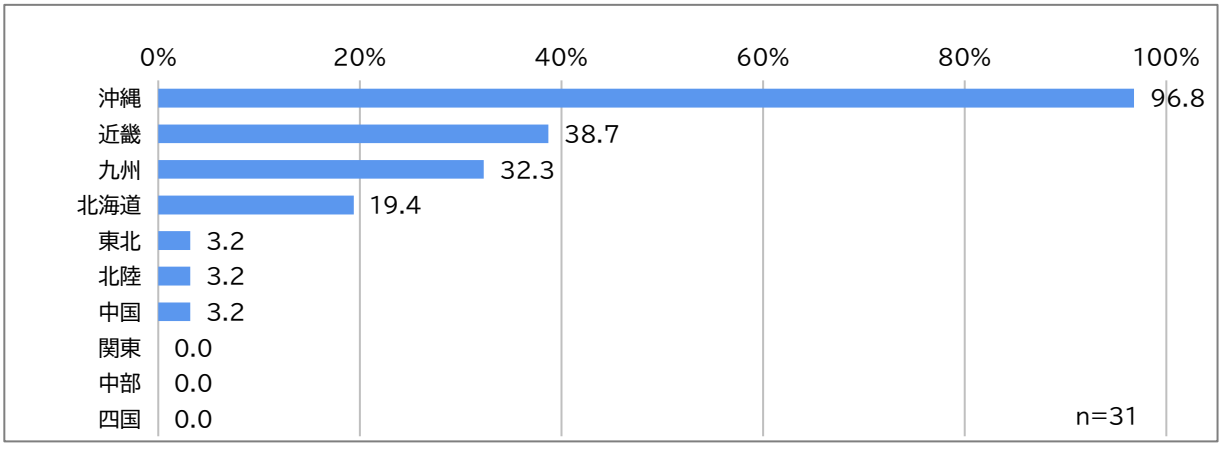
探究学習は、少人数のグループごとなど、少人数単位で行われる事より、1バス毎の分散型で実施する体制が整うと良いであろう。この場合、少人数しか受入が出来ない事業者でも受入が可能となり、沖縄全体で、さらに充実したコンテンツが提供可能になるのではないだろうか。

今後、公的機関や受入に関わる各事業者が連携を図り、様々なコンテンツで「事前学習～現場体験～事後学習」の一連のプログラムを構築することで、安定的な教育旅行誘致につながるものと考える。

項目	内容
調査対象	県外旅行会社（教育旅行担当者）
調査方法	オンラインWEB調査
調査期間	令和4年8月5日（金）～8月19日（金）
配布数	31件（関東エリア20名／中部エリア4名／近畿エリア7名）
回収数	31件
調査結果の見方	○各調査結果については、原則として、各質問の調査数を基数とした百分率（%）で表している。集計は、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100%にならない場合がある。 ○2つ以上の選択肢を選択できる複数回答の質問の場合、回答比率の合計が100%を超える場合がある。 ○サンプル数が僅少となる属性項目については、比較が変動しやすいため、参考程度の掲載にとどめ結果の利用は注意を要する。

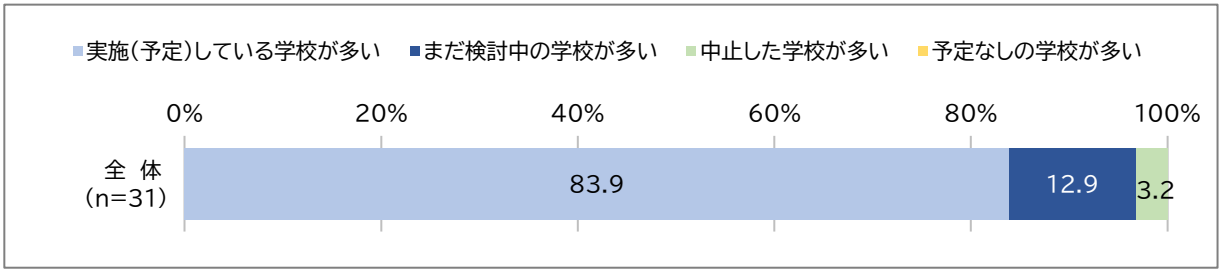
①人気の高い訪問地域

「沖縄」が96.8%で他地域と比べても非常に高い人気を誇っている。



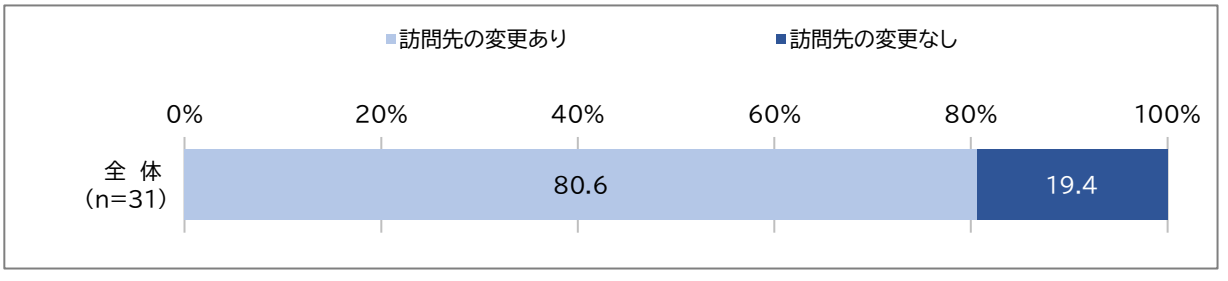
②教育旅行実施状況

「実施（予定）している学校が多い」が83.9%で、需要に回復傾向がある事が伺える。



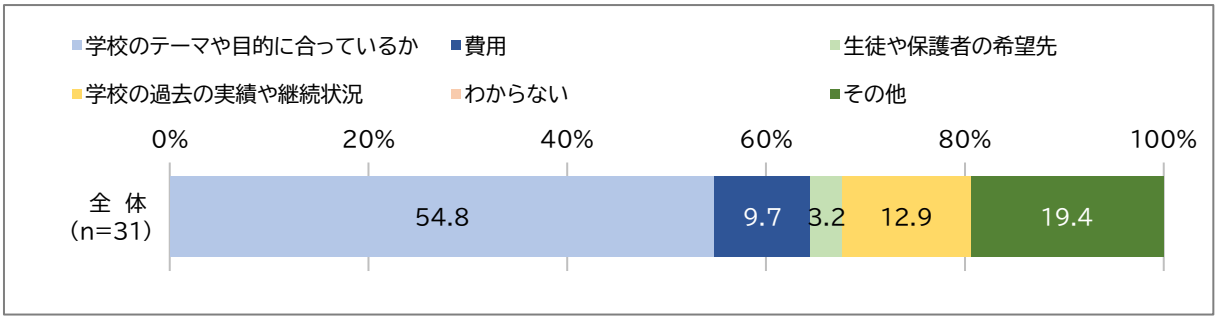
③訪問先の選定

「訪問先の変更あり」が80.6%で、訪問先の見直しが図られている。



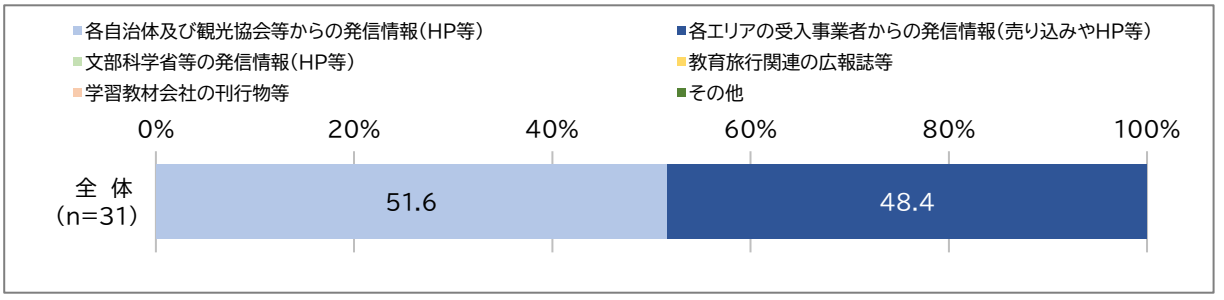
④訪問先の選定で重視している点

「学校のテーマや目的に合っているか」が54.8%で、学校の求めるテーマが重視されている。その他の意見には、移動距離や、保護者が車で迎えにいけるか（陸続き）等、安全・安心に関する意見等があった。



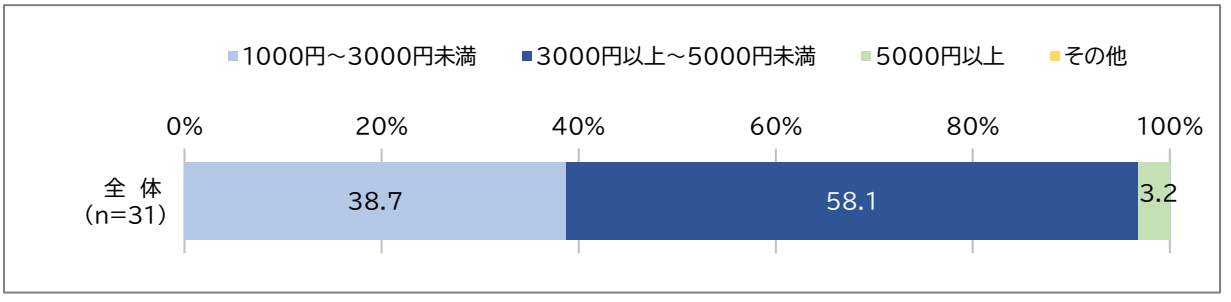
⑤参考とする情報源

参考とする情報源は「各自治体及び観光協会等からの発信情報（HP等）」が51.6%で割合が高いことから、地元からの情報発信が重要といえる。



⑥プログラムに対する適正価格

1プログラムに対する適正価格（理想的な金額）は「3000円以上～5000円未満」が58.1%で最も高い。

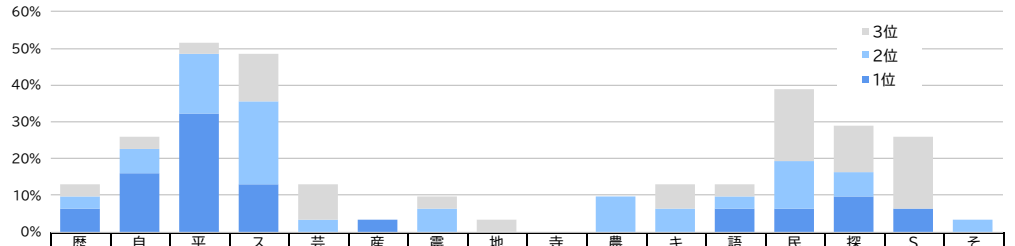


⑦人気のコンテンツ

学校に人気の高いコンテンツにおいては、「平和学習」が32.3%と最も高い。続いて「自然・環境・科学学習」が16.1%、「スポーツ体験」が12.9%の順となっている。

1位と2位を比較すると、16.2%の差が開いており平和学習の人気度が伺えるが、2位と3位の差は3.2%と大きな差は見られなかった。

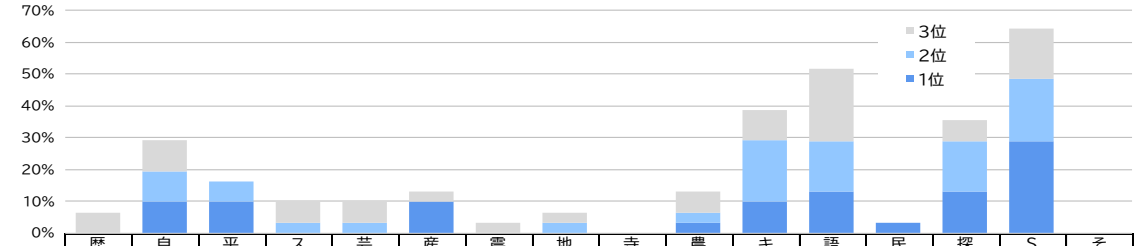
また、1位～3位の全体の合計においても「平和学習」が51.6%で1位となった。



	歴史学習	自然・環境・科学学習	平和学習	スポーツ体験	芸術・文化体験	産業・ものづくり体験	震災・防災学習	地元・郷土料理等の食文化体験	寺社・仏閣等での体験	農漁業体験・グリーンツーリズム	キャリア体験・学習	語学・グローバル体験・異文化学習	民泊・ホームステイ	探究学習	SDGs関連	その他
1位(%)	6.5	16.1	32.3	12.9	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	6.5	9.7	6.5	0.0
2位(%)	3.2	6.5	16.1	22.6	3.2	0.0	6.5	0.0	0.0	9.7	6.5	3.2	12.9	6.5	0.0	3.2
3位(%)	3.2	3.2	3.2	12.9	9.7	0.0	3.2	3.2	0.0	0.0	6.5	3.2	19.4	12.9	19.4	0.0
合計(%)	12.9	25.8	51.6	48.4	12.9	3.2	9.7	3.2	0.0	9.7	13.0	12.9	38.8	29.1	25.9	3.2
加重平均	4.9	12.1	25.4	17.4	8.1	3.2	5.4	3.2	0.0	9.7	6.5	4.9	15.1	10.4	16.2	3.2

⑧「探究・課題解決学習」に取り入れて欲しいコンテンツ

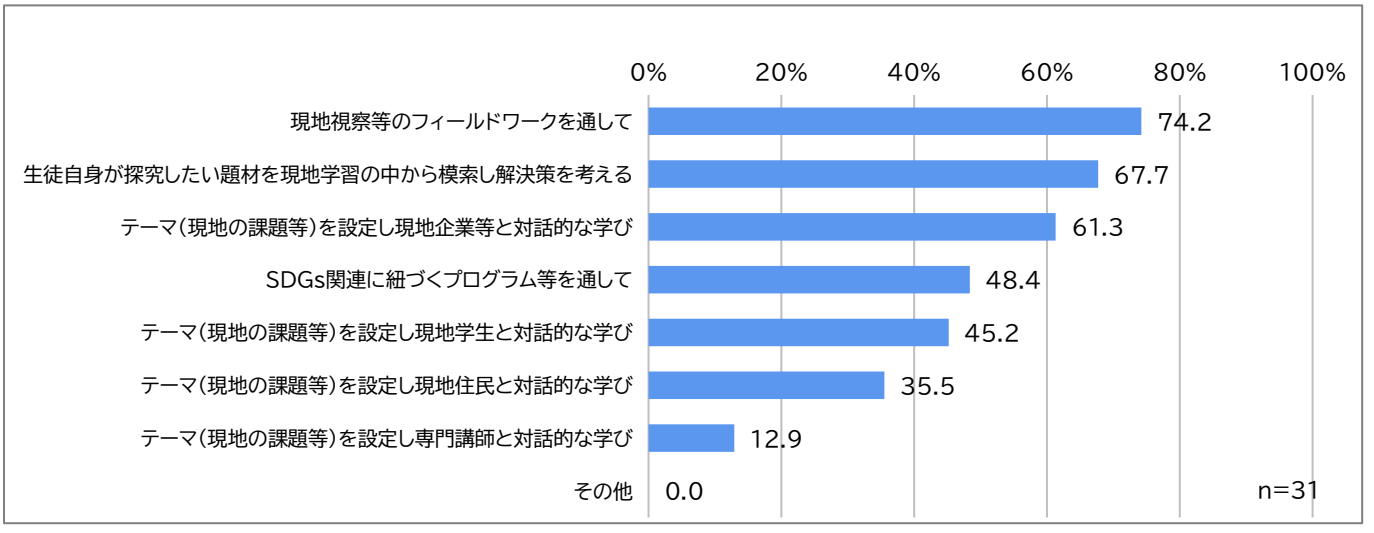
取り入れて欲しいコンテンツにおいて1位の割合をみると「SDGs関連」が29.0%で最も高い。更に、1位～3位の合計の割合でみても64.5%と最も高くなっている。



	歴史学習	自然・環境・科学学習	平和学習	スポーツ体験	芸術・文化体験	産業・ものづくり体験	震災・防災学習	地元・郷土料理等の食文化体験	寺社・仏閣等での体験	農漁業体験・グリーンツーリズム	キャリア体験・学習	語学・グローバル体験・異文化学習	民泊・ホームステイ	探究学習	SDGs関連	その他
1位(%)	0.0	9.7	9.7	0.0	0.0	9.7	0.0	0.0	0.0	3.2	9.7	12.9	3.2	12.9	29.0	0.0
2位(%)	0.0	9.7	6.5	3.2	3.2	0.0	0.0	3.2	0.0	3.2	19.4	16.1	0.0	16.1	19.4	0.0
3位(%)	6.5	9.7	0.0	6.5	6.5	3.2	3.2	3.2	0.0	6.5	9.7	22.6	0.0	6.5	16.1	0.0
合計	6.5	29.1	16.2	9.7	9.7	12.9	3.2	6.4	0.0	12.9	38.8	51.6	3.2	35.5	64.5	0.0
加重平均	6.5	9.7	8.4	5.4	5.4	8.1	3.2	3.2	0.0	4.9	14.6	18.1	3.2	13.2	22.9	0.0

⑨「探究・課題解決学習」の取組み方法

今後どのように「探究・課題解決学習」を行う必要があるかについては「現地視察等のフィールドワークを通して」が74.2%で最も高い。続いて「生徒自身が探究したい題材を現地学習の中から模索し解決策を考える」が67.7%となっており、生徒自ら行動し、体験、経験を通じた学びを得ることに期待していることがうかがえる。



●課題（テーマ）について

- 学校の希望がSDGsに対する要望がかなり高くなっているのでプログラムを紹介していただきたい。
- 探究はインプットとアウトプットがあってスタートすると思います。SDGsを絡めるケースが多いですが、「このプログラムはSDGsの〇番の項目です」みたいなものは不要。
- プログラムとして充実した内容になっているかが重要。
- テーマが漠然としている場合が多く、学校に勧めずらいことが多い。
- 事前・事後学習も含め、トータルで学習できる素材が少ない。
- 探究学習の位置づけがあいまいなところがある。なんでも探究に結びつけられるが探究学習としてしっかりしたコンセプトをもとに作られているコンテンツが少ない。

●問題点

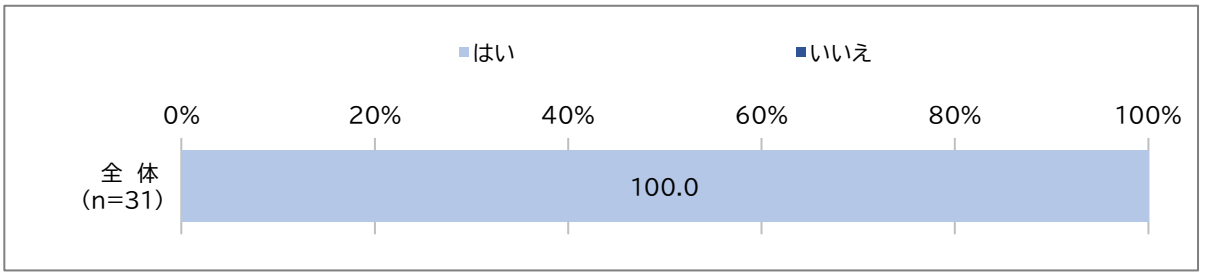
- 学校や担当教員、学年によって温度差がある事です。
- 学校毎にオーダーメイドで作ることが多いのでパッケージ化しにくく汎用性がない。
  また、企業や学校との交流でアポイントの確定が直前になり、受注時に担保できない。
- 言葉が先行してしまい後追いで探究を導入しているが、本来の姿と違う。
  与えた物を探究するのでは無く自ら考え疑問に思い現地で探究し、自分が暮らす環境に反映する。それが本来の姿では。昨年は好評だった内容も当該年度は不評や内容変更もあり。
- 自治体の協力がまだまだ整備されていない。
- 学習の進め方をどのようにしたらよいか理解できていない。
- 大規模学校の場合、タクシー等の受入れキャパの問題（ピーク時）
- 人数の問題。多人数に対応できるかどうか。
- 生徒の主体的な学びの際に、交流できる企業や学校がまだまだ少ない。
- 学校により探究学習への取組に対し大きな差がある為、カスタマイズが必要。
- 設定する上で、料金や受入人数が気になる。
- 答えのない分野という性質から教育のプロである先生自身進め方が分かっておらず、そこを旅行会社がどのように提案すべきか、どこまで口を出してよいのかの線引きが分からず悩んでいる。
- 学校を松竹梅で分けた際にどこまでの範囲を提供するべきか学校と緊密なすり合わせをする必要がある。

●要望

- 受入可否が早めに分かればありがたいです。
- 事前・事後学習のフォロー。生徒が事前学習で設定したテーマに対する受入先とのパイプ。
- 事前学習の際に旅行会社が介入できる提案プログラム。
- 探究学習の実地調査を行うときの受け入れ体制、事前学習で現地の受け入れ先のサポートができるかなど。
- 学びが点で終わってしまっているところ。旅行での学びと授業でおこなわれている探究時間を結びつけられると付加価値の高いものになると感じる。
  例えば、通年型のPBL（問題解決型学習プログラムなどの展開）沖縄を活かしたプログラム展開を図ることで他エリアとの差別化にも繋がるのではないか

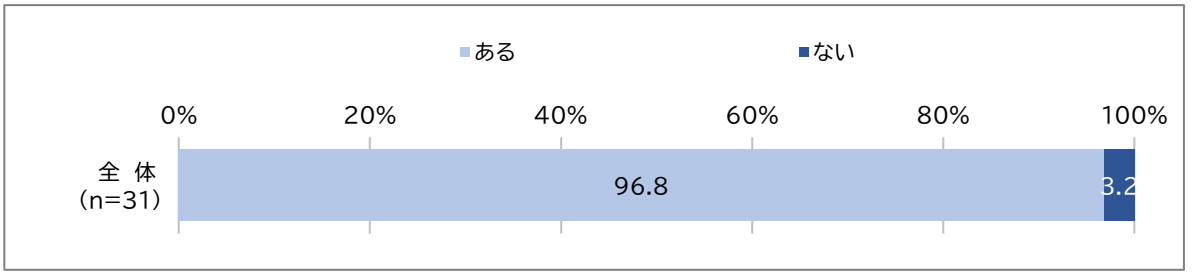
⑩「探究・課題解決学習」に関連する自社商品の有無

探究・課題解決学習に関連する自社商品がある割合は100%となっている。



⑪沖縄を選定している学校の有無

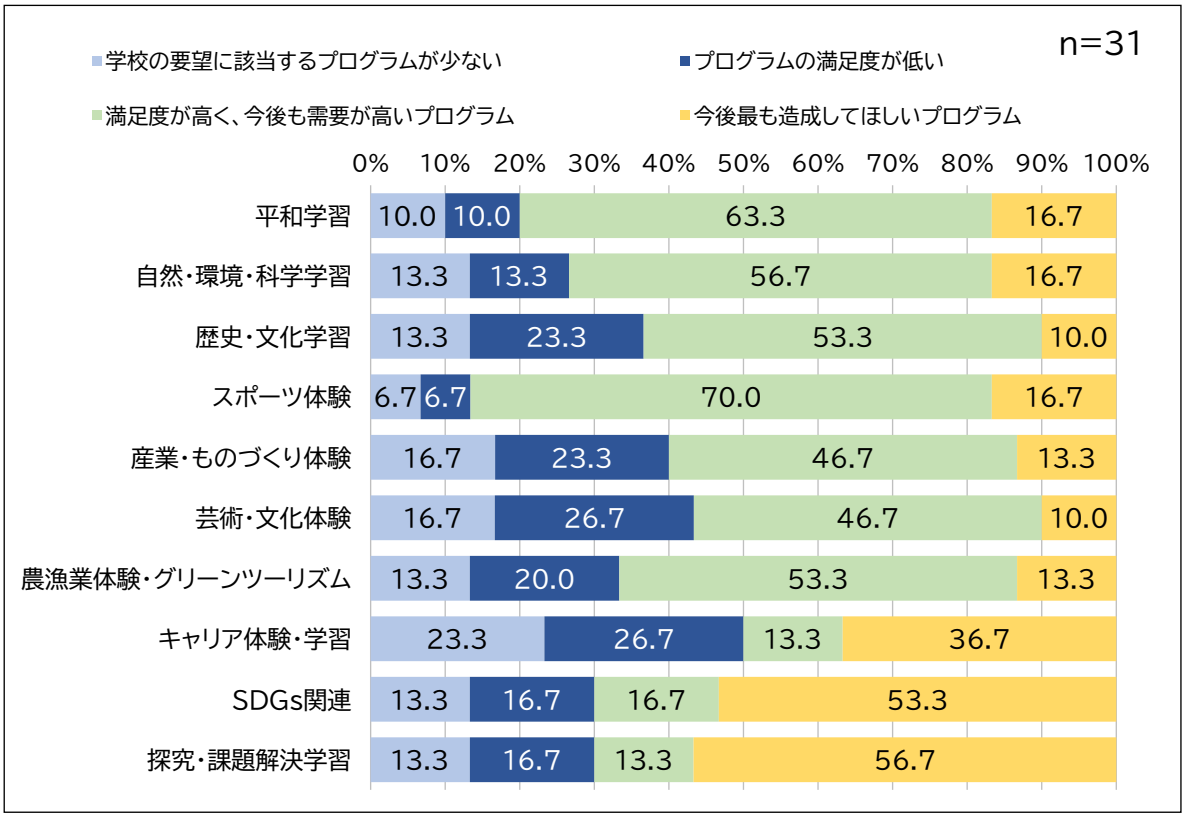
取り扱いの学校で沖縄を選定している割合は96.8%となっている。



⑫沖縄の教育コンテンツについて

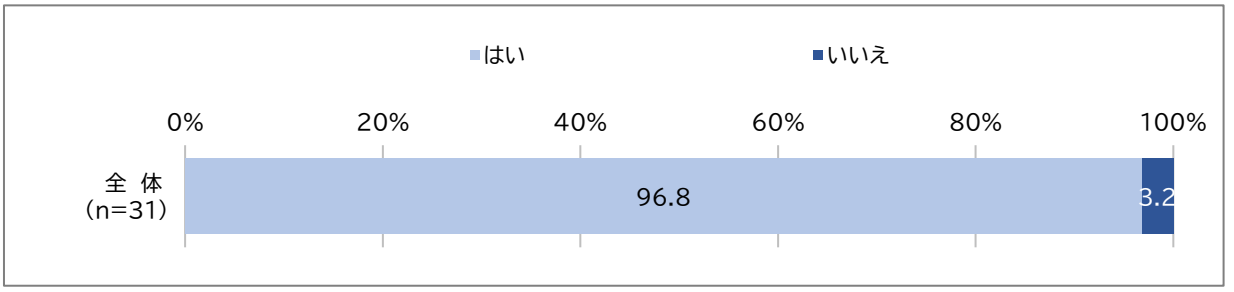
「満足度が高く、今後も需要が高いプログラム」を見ると「マリン・スポーツ体験」が70.0%と最も高い。続いて「平和学習」が63.3%の順となっている。

また、「今後最も造成してほしいプログラム」では「探究・課題解決学習」が56.7%、「SDGｓ関連」が53.3%となっている。



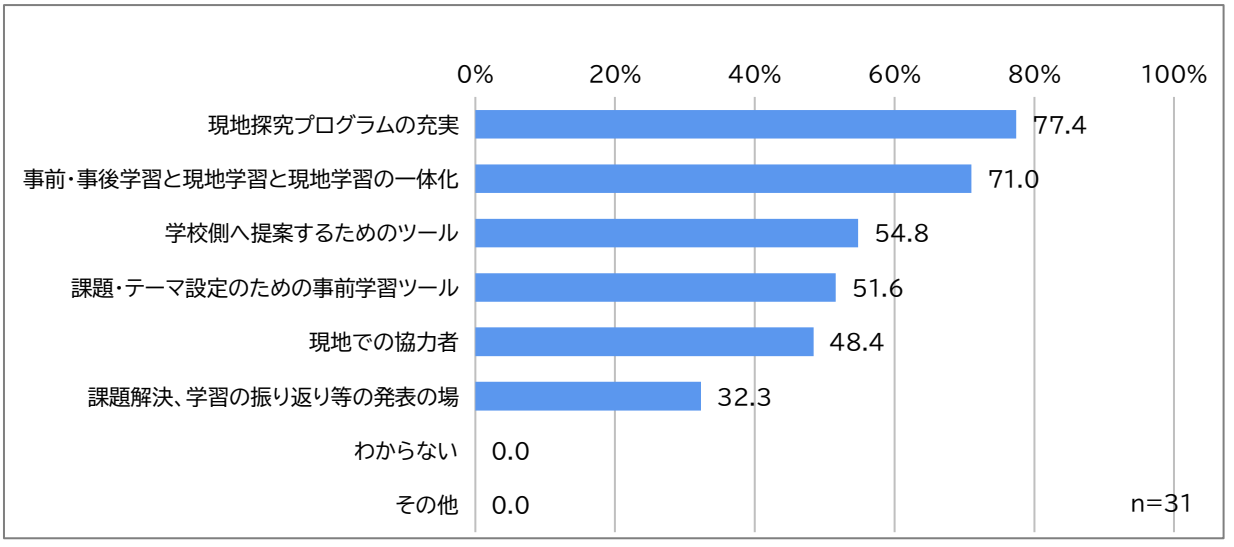
⑬沖縄修学旅行ナビの参考状況

沖縄修学旅行ナビを参考にしている担当者は96.8%となり、情報発信媒体の必要性が伺える。



⑭必要なサポート

沖縄教育旅行を実施するにあたり、沖縄県で必要なサポートは「現地の探究プログラムの充実」が77.4%、「事前・事後学習と現地学習と現地学習の一体化」が71.0%で高いことから探究プログラムの造成や、事前・事後学習の一体化が特に求められている。



沖縄教育旅行における受入体制等の課題・要望

＜コンテンツの拡充・造成＞

・沖縄県のサポートが充実したプログラムがさらに出てくることを望む

・地元企業や自治体と連携したプログラム造成が今後必要と感じる

・現地学生や現地の大学生など目線の同じくらいの年代での平和学習や歴史学習に関してのプログラム沖縄自然・海（スポーツなどの体験を絡めた）を探究できるプログラム（単なるマリンスポーツではなく）同じく歴史・文化についても

・単なる体験学習で終わらず、課題解決学習や事前、事後学習を拡充させていくこと

＜仕組み・制度＞

・地元の企業や学校と交流できるようにするための調整窓口が欲しい

・班別が充実するエリアや仕組みがあると嬉しい

・現地で班別などでフィールドワークを行う場合に、例えば現地の企業や学校などとアポイントを取る仕組みが容易にできるようになると、さらなる探究学習の取り組みが容易になる

＜予算＞

・SE運賃の値下げ、食事施設（コロナ以降対応できる施設減少）、平和学習（語り部問題）

・神奈川県の公立高校では予算10万の問題があり、コンテンツが良くても3泊4日では予算オーバーになってしまいます。2泊3日にするか、コンテンツも含めて少し安くしてもらえるか

＜交通の便＞

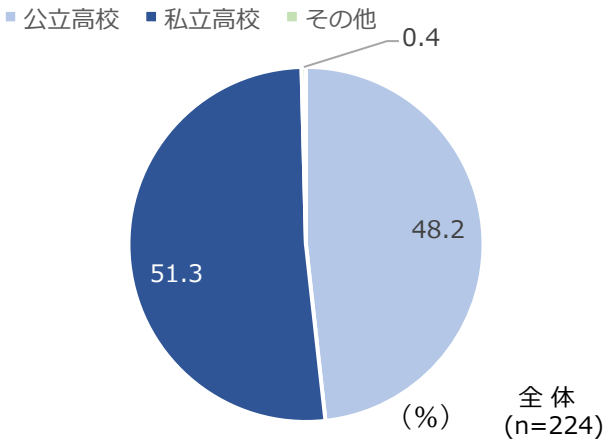
・中部からのエアーの座席数が一番の課題。学校の希望通りの日程・時間の便がほとんど取れない沖縄離れが（岐阜については九州に方面変更）進む一番の要因

調査概要

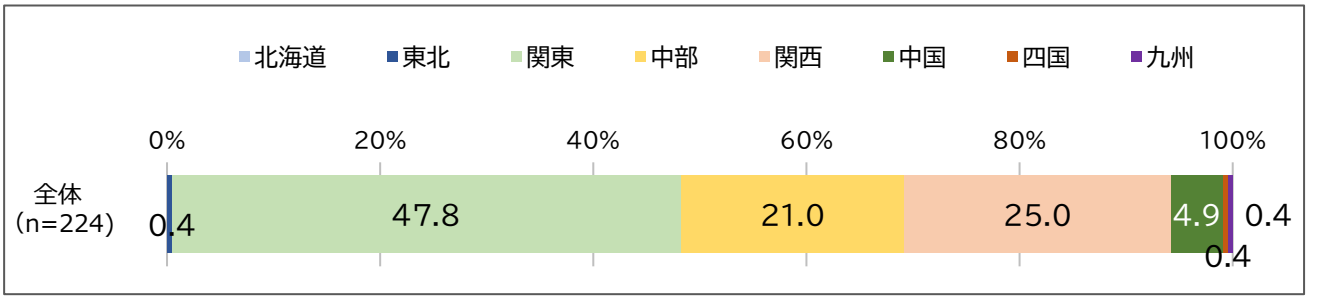
項目	内容
調査対象	県外学校へのアンケート調査（下記3つのカテゴリーで学校を選定し、実施） ・沖縄での教育旅行実績のある学校 ・沖縄での教育旅行実績の無い学校 ・海外への修学旅行を実施している学校
調査方法	郵送配布及びオンラインWEB調査（FAX 回収、e-mail、WEB回収）
調査期間	令和4年7月19日（火）～令和5年2月17日（金）
配布数	620件
回収数	224件
調査結果の見方	○各調査結果については、原則として、各質問の調査数を基数とした百分率 （%）で表している。集計は、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100%にならない場合がある。 ○2つ以上の選択肢を選択できる複数回答の質問の場合、回答比率の合計が100%を超える場合がある。 ○サンプル数が僅少となる属性項目については、比較が変動しやすいため、参考程度の掲載にとどめ結果の利用は注意を要する。

回答校の基本情報

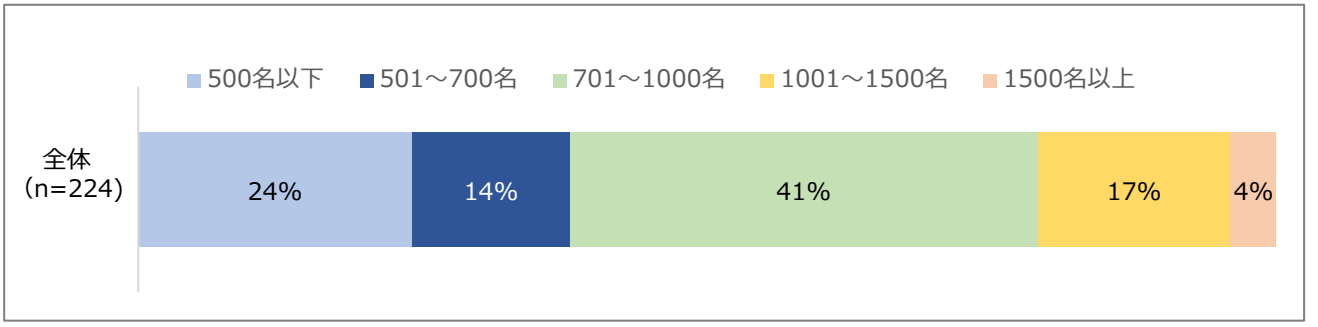
①学校形態



②所在地

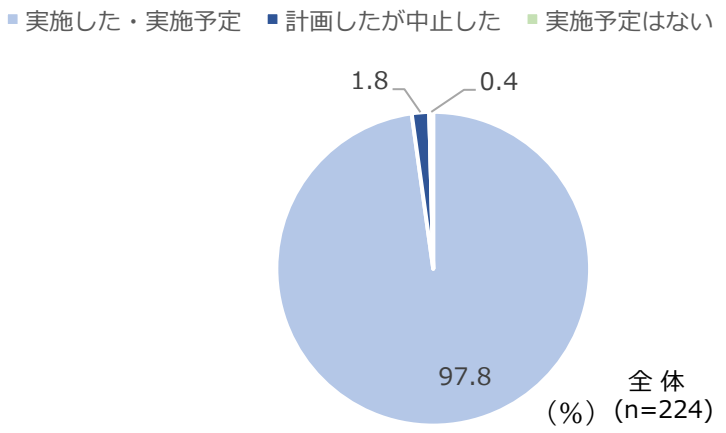


③在校生数



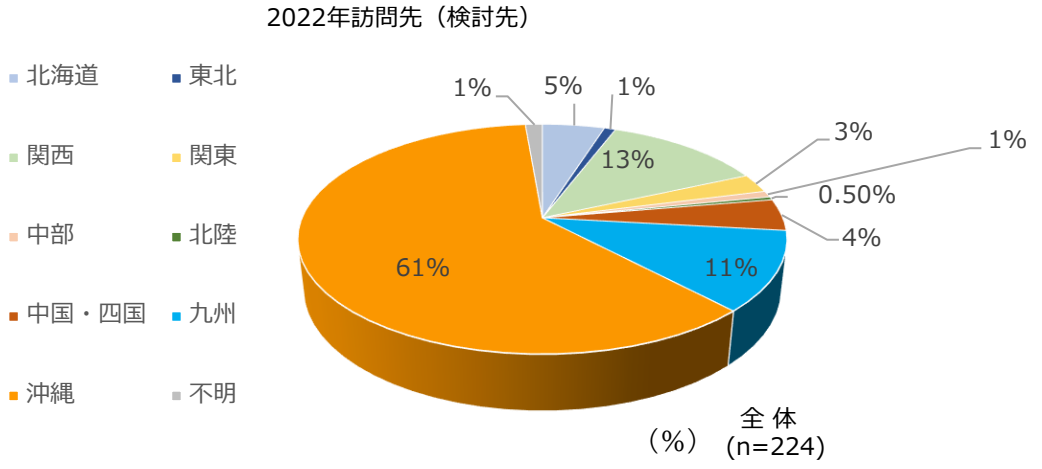
①2022年の実施状況

回答のあった学校の実施状況をみると、「実施した・実施予定」が97.8%となっており、教育旅行が回復傾向にある事がわかる。



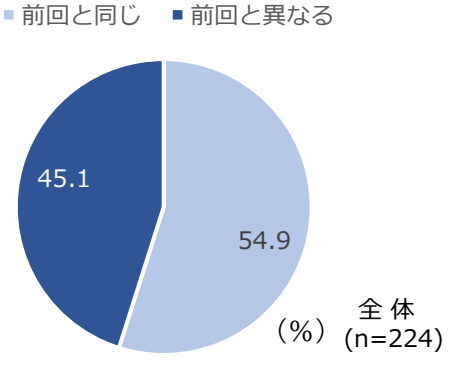
②訪問先（検討先）

2022年の教育旅行先（検討先）としては、「沖縄」が全体の61%とと最も高い。続いて「関西」の13%となっている。「沖縄」と回答した内、5%は、国内の別エリアや海外との選択式等となっている。



③訪問先の継続状況

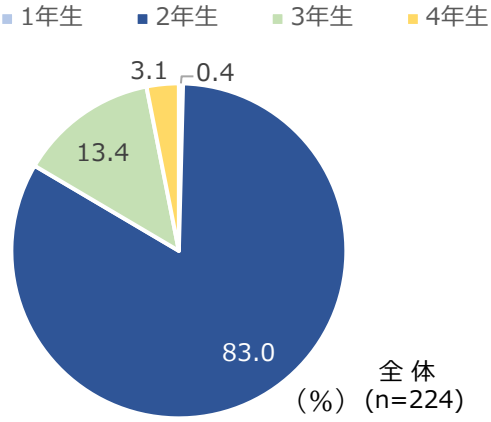
訪問先の継続状況をみると、「前回と同じ」が54.9%、「前回と異なる」が45.1%となっている。
また、「前回と異なる」と回答した中には、沖縄へ方面を戻したが27校、海外から沖縄へ変更した学校が9校、新しくコース分けの選択先に沖縄を追加したが2校あった。



④教育旅行実施の学年

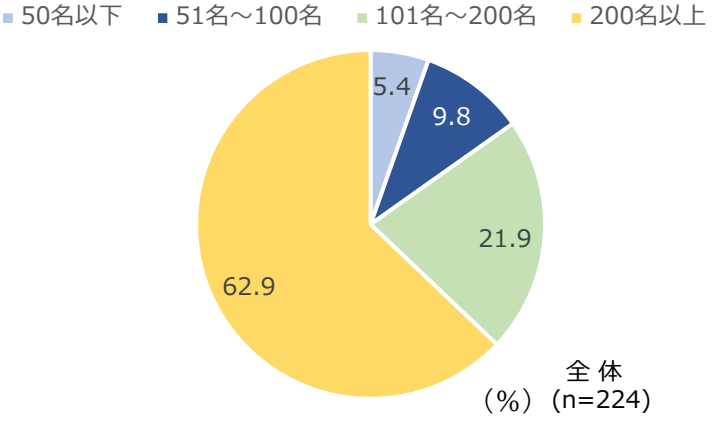
実施学年についてみると、「2年生」が83.0%で最も高くなっている。「教育旅行年報2022」等でも同じ結果となっており、進路・受験との関係で2年生での実施が適切な時期となっていることがうかがえる。

その他では、「1・2年の希望者」「コロナの影響で2年生から3年生に変更」「本来は2年に実施だが、コロナの影響により3年で実施」等がある。



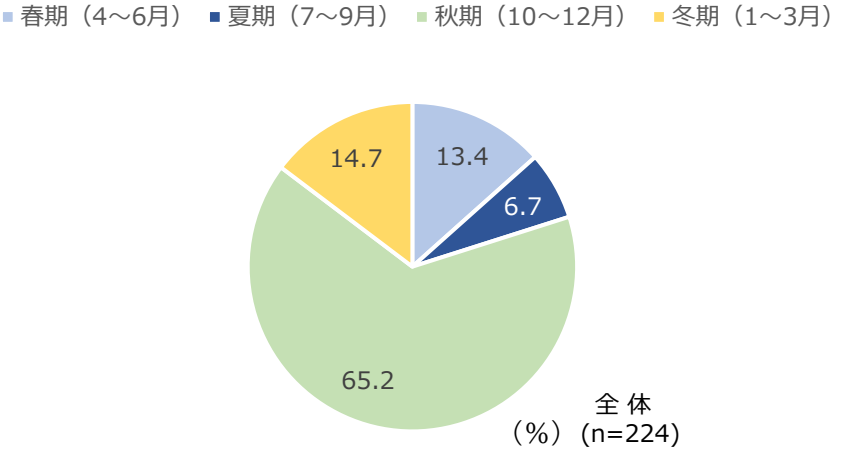
⑤参加人数

「200名以上」が62.9%と6割を超え、100名以上を含めると8割以上となる事よりwithコロナで大人数を受け入れる体制・手法を整備する必要がある。



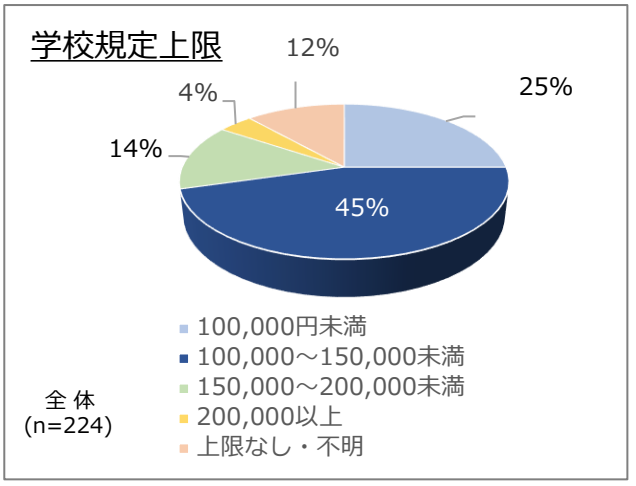
⑥実施時期

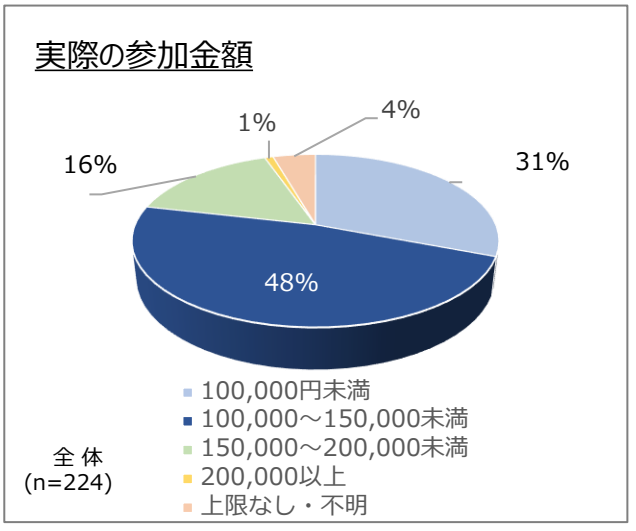
「秋期（10～12月）」が65.2%と最も高く、これは、各年の沖縄県の修学旅行入込状況調査の結果とも同様である。

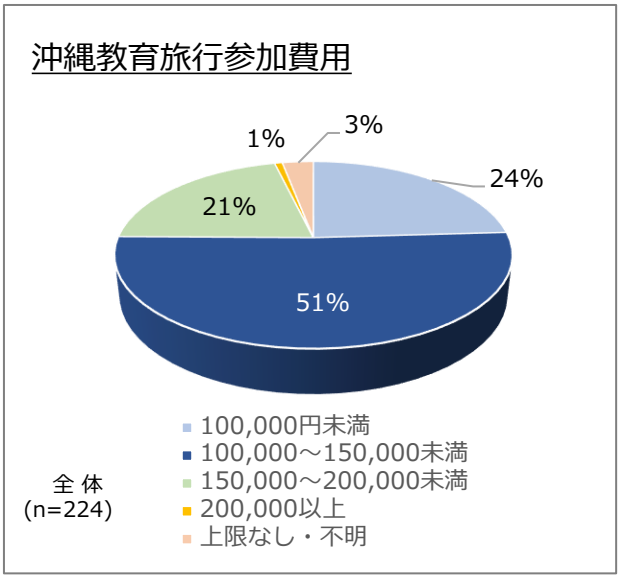


⑦1人当たりの参加費用（学校上限費及び実際の参加費用）

教育旅行に係る費用について、上限額及び実際の参加費用共に「100,000円～150,000円未満」が最も多く約5割を占める。一部の私立高校では、「200,000円以上」の学校もあり、大半の学校が上限額まで実際に使用している。



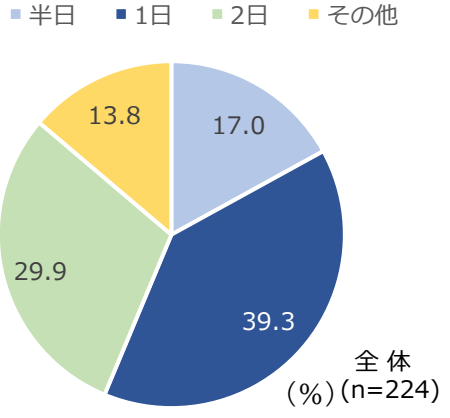




沖縄教育旅行を行っている学校の参加費用も「100,000円～150,000円未満」が最も多く150,000円以上を含めると7割以上となる。

⑧班別活動・探究活動の日数

班別活動・探究活動の日数をみると、「1日」が39.3%、「2日」が29.9%、「半日」が17.0%と続く。「その他」は特に定めておらず、その年度やコース内容によって、適宜調整している。

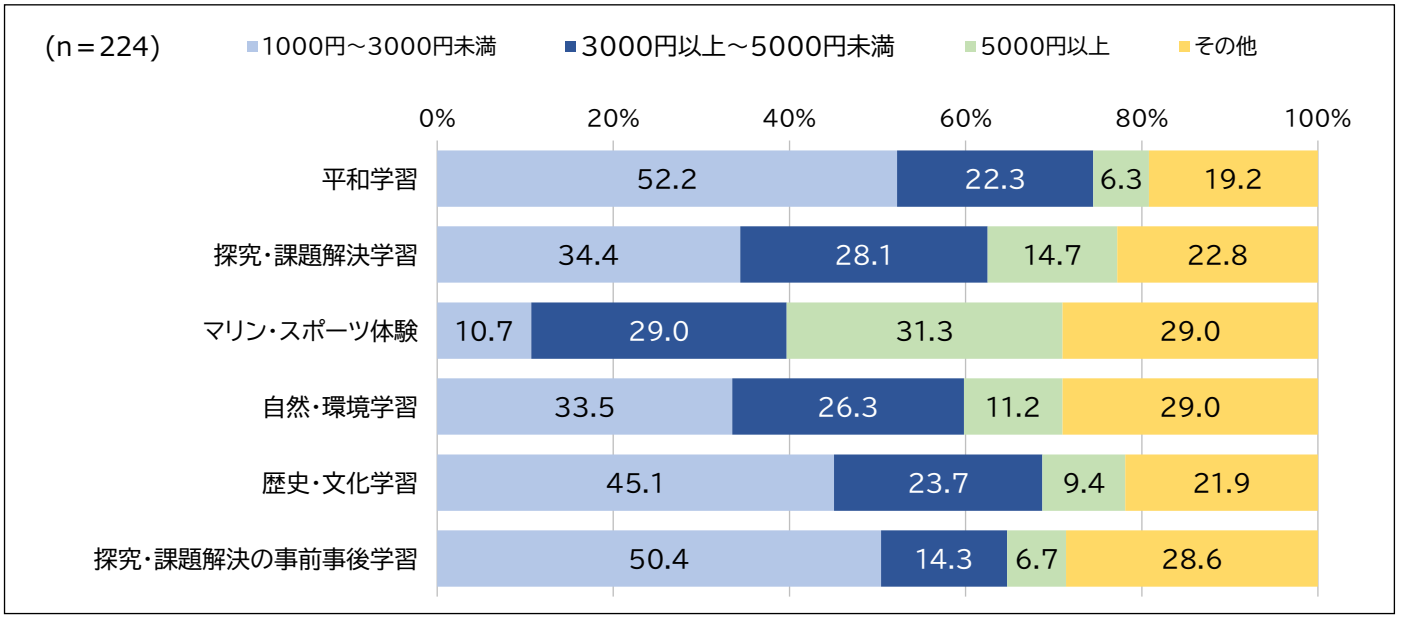


⑨生徒一人当たりのコンテンツ費用

「マリン・スポーツ体験」では、5000円以上が31.3%となり、他のコンテンツと比べて予算金額が高くなっていることがわかる。

各コンテンツの予算額を学校の形態別にみると、「平和学習」において「1000円～3000円未満」の区分では公立高校の割合が 高くなっている。

「探究・課題解決の事前・事後学習」にかけている費用は、「1000円～3000円未満」が最も多く、50.４%である。



予算額（各コンテンツ別）公立・私立高校

＜平和学習＞ （%）

		回答数（件）	1000円～3000円未満	3000円以上～5000円未満	5000円以上	その他
全体		224	52.2	22.3	6.3	19.2
学校の形態	公立高校	108	63.0	17.6	2.8	16.7
	私立高校	115	41.7	27.0	9.6	21.7
	その他	1	100.0	-	-	-

＜自然･環境学習＞ （%）

		回答数(件)	1000円～3000円未満	3000円以上～5000円未満	5000円以上	その他
全体		224	33.5	26.3	11.2	29.0
学校の形態	公立高校	108	35.2	25.9	7.4	31.5
	私立高校	115	31.3	27.0	14.8	27.0
	その他	1	100.0	-	-	-

＜探究･課題解決学習＞ （%）

		回答数（件）	1000円～3000円未満	3000円以上～5000円未満	5000円以上	その他
全体		224	34.4	28.1	14.7	22.8
学校の形態	公立高校	108	36.1	29.6	10.2	24.1
	私立高校	115	33.0	26.1	19.1	21.7
	その他	1	-	100.0	-	-

＜歴史･文化学習＞ （%）

		回答数(件)	1000円～3000円未満	3000円以上～5000円未満	5000円以上	その他
全体		224	45.1	23.7	9.4	21.9
学校の形態	公立高校	108	46.3	24.1	5.6	24.1
	私立高校	115	43.5	23.5	13.0	20.0
	その他	1	100.0	-	-	-

＜マリン･スポーツ体験＞ （%）

		回答数（件）	1000円～3000円未満	3000円以上～5000円未満	5000円以上	その他
全体		224	10.7	29.0	31.3	29.0
学校の形態	公立高校	108	9.0	35.0	36.0	28.0
	私立高校	115	15.0	29.0	34.0	37.0
	その他	1	-	1	-	-

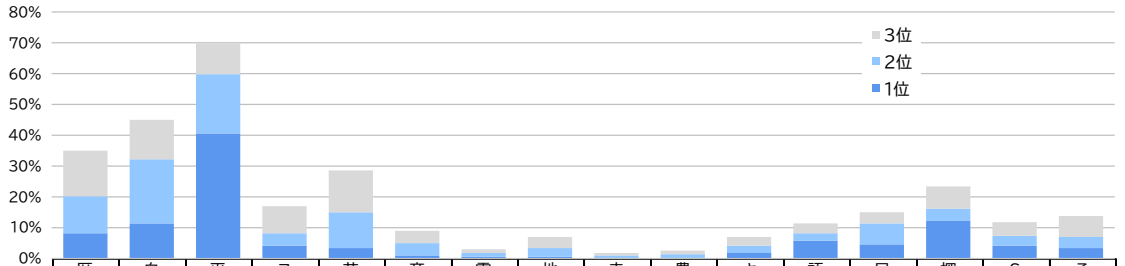
＜探究･課題解決の事前事後学習＞ （%）

		回答数(件)	1000円～3000円未満	3000円以上～5000円未満	5000円以上	その他
全体		224	50.4	14.3	6.7	28.6
学校の形態	公立高校	108	55	14.0	5.0	34.0
	私立高校	115	57	18.0	10.0	30.0
	その他	1	1	-	-	-

教育旅行プログラム

①教育旅行で重視しているコンテンツ

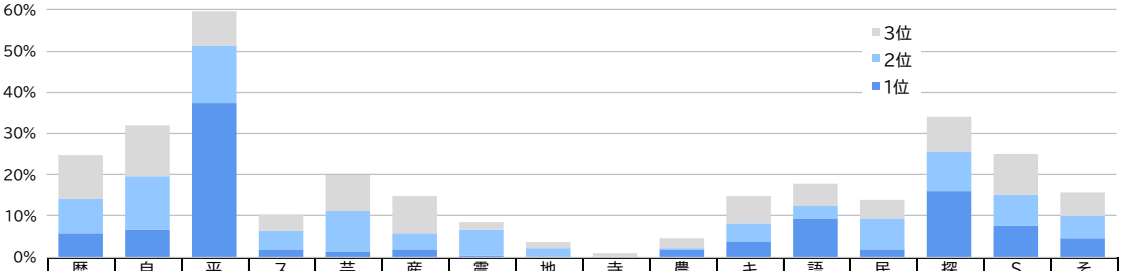
教育旅行で重視している1～3位の合計の割合を見ると、「平和学習」が70.1%と最も多く、次いで「自然・環境・科学学習」が45.1%であった。「探究学習」については、今年度から本格的に施行される学習要素という事もあり23.2%という結果であった。



	歴史学習	自然・環境・科学学習	平和学習	スポーツ体験	芸術・文化体験	産業・ものづくり体験	震災・防災学習	地元・郷土料理等の食文化体験	寺社・仏閣等での体験	農漁業体験・グリーンツーリズム	キャリア体験・学習	語学・グローバル体験・異文化学習	民泊・ホームステイ	探究学習	SDGs関連	その他
1位(%)	8.0	11.2	40.6	4.0	3.1	0.9	0.4	0.4	-	-	1.8	5.8	4.5	12.1	4.0	3.1
2位(%)	12.1	21.0	19.2	4.0	11.6	4.0	1.3	2.7	0.9	1.3	2.2	2.2	6.7	4.0	3.1	3.6
3位(%)	14.7	12.9	10.3	8.9	13.8	4.0	1.3	3.6	0.9	1.3	2.7	3.1	3.6	7.1	4.5	7.1
合計	34.8	45.1	70.1	16.9	28.5	8.9	3.0	6.7	1.8	2.6	6.7	11.1	14.8	23.2	11.6	13.8
加重平均	12.3	16.2	30.3	6.6	11.7	3.7	1.2	3.0	0.9	1.3	2.3	4.3	5.3	9.2	4.0	5.3

②今後重視したい内容

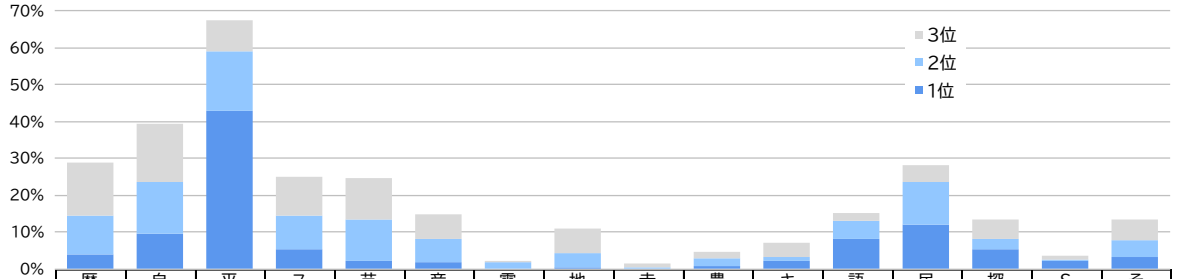
今後重視したい内容について、1～3位の合計は「平和学習」が59.8%と最も高い。探究学習においては、上記の「教育旅行で重視しているコンテンツで割合が少なかったものの、今後重視したい内容では平和学習に続いて2位の結果となった。



	歴史学習	自然・環境・科学学習	平和学習	スポーツ体験	芸術・文化体験	産業・ものづくり体験	震災・防災学習	地元・郷土料理等の食文化体験	寺社・仏閣等での体験	農漁業体験・グリーンツーリズム	キャリア体験・学習	語学・グローバル体験・異文化学習	民泊・ホームステイ	探究学習	SDGs関連	その他
1位(%)	5.8	6.7	37.5	1.8	1.3	1.8	0.4	-	-	1.8	3.6	9.4	1.8	16.1	7.6	4.5
2位(%)	8.5	12.9	13.8	4.5	9.8	4.0	6.3	2.2	-	0.4	4.5	3.1	7.6	9.4	7.6	5.4
3位(%)	10.3	12.5	8.5	4.0	8.9	8.9	1.8	1.3	0.9	2.2	6.7	5.4	4.5	8.5	9.8	5.8
合計	24.6	32.1	59.8	10.3	20.0	14.7	8.5	3.5	0.9	4.4	14.8	17.9	13.9	34.0	25.0	15.7
加重平均	8.6	11.5	27.9	3.8	8.8	6.7	5.0	1.9	0.9	1.9	5.3	7.1	5.9	12.3	8.5	5.3

③これまでの教育旅行で、生徒にとって学習効果が高かったコンテンツ

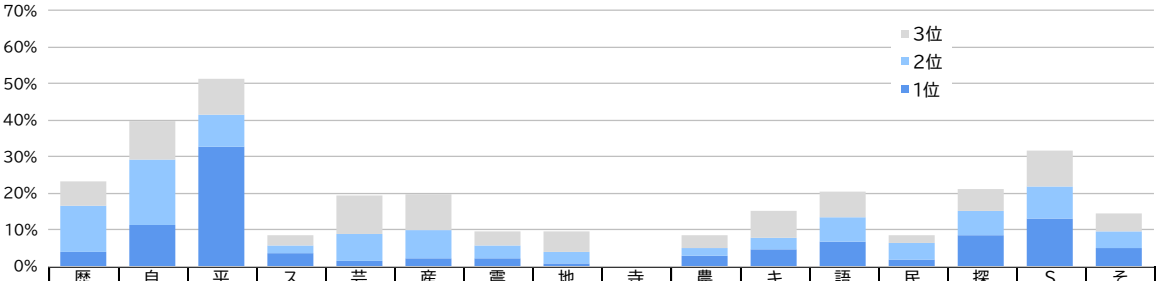
学習効果のあったコンテンツについて合計をみると、「平和学習」が67.5%で最も高いことから、前ページの「現状の重点コンテンツ」「今後の重点コンテンツ」へつながっていることがうかがえる。



	歴史学習	自然・環境・科学学習	平和学習	スポーツ体験	芸術・文化体験	産業・ものづくり体験	震災・防災学習	地元・郷土料理等の食文化体験	寺社・仏閣等での体験	農漁業体験・グリーンツーリズム	キャリア体験・学習	語学・グローバル体験・異文化学習	民泊・ホームステイ	探究学習	SDGs関連	その他
1位(%)	4.0	9.4	42.9	5.4	2.2	1.8	-	0.4	-	0.9	2.2	8.0	12.1	5.4	2.2	3.1
2位(%)	10.3	14.3	16.1	8.9	11.2	6.3	1.8	4.0	0.4	1.8	0.9	4.9	11.6	2.7	0.4	4.5
3位(%)	14.7	15.6	8.5	10.7	11.2	6.7	0.4	6.7	0.9	1.8	4.0	2.2	4.5	5.4	0.9	5.8
合計	29.0	39.3	67.5	25.0	24.6	14.8	2.2	11.1	1.3	4.5	7.1	15.1	28.2	13.5	3.5	13.4
加重平均	11.7	13.6	32.2	8.9	10.4	5.9	1.5	5.5	0.7	1.6	3.1	6.1	10.7	4.9	1.7	4.7

④教育旅行先で「探究・課題解決学習」に取り入れたいコンテンツ

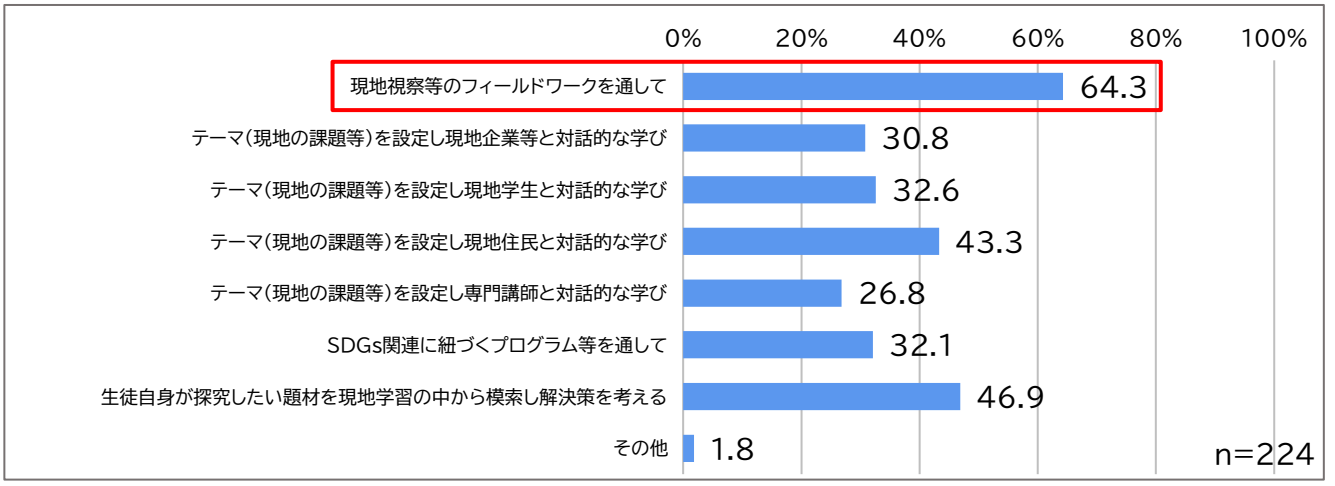
取り入れたいコンテンツの合計で最も高いのが「平和学習」の51.3%となっている。続いて「自然・環境・科学学習」が39.8%、「SDGs関連」が31.6%となった。



	歴史学習	自然・環境・科学学習	平和学習	スポーツ体験	芸術・文化体験	産業・ものづくり体験	震災・防災学習	地元・郷土料理等の食文化体験	寺社・仏閣等での体験	農漁業体験・グリーンツーリズム	キャリア体験・学習	語学・グローバル体験・異文化学習	民泊・ホームステイ	探究学習	SDGs関連	その他
1位(%)	4.0	11.2	32.6	3.6	1.3	2.2	2.2	0.9	-	2.7	4.5	6.7	1.8	8.5	12.9	4.9
2位(%)	12.5	17.9	8.9	2.2	7.6	7.6	3.6	3.1	0.0	2.2	3.1	6.7	4.5	6.7	8.9	4.5
3位(%)	6.7	10.7	9.8	2.7	10.3	9.8	3.6	5.4	0.0	3.6	7.6	7.1	2.2	5.8	9.8	4.9
合計	23.2	39.8	51.3	8.5	19.2	19.6	9.4	9.4	0.0	8.5	15.2	20.5	8.5	21.0	31.6	14.3
加重平均	9.4	14.1	24.1	2.9	8.6	8.1	3.3	4.2	-	2.9	5.8	6.8	3.3	7.2	10.8	4.8

⑤教育旅行先での「探究学習・課題解決学習」導入方法

「現地視察等のフィールドワークを通して」が64.3%で最も高い。続いて「生徒自身が探究したい題材を現地学習の中から模索して考える」が46.9%、「現地住民と対話的な学び」が43.3%の順となっている。



＜上記内訳＞

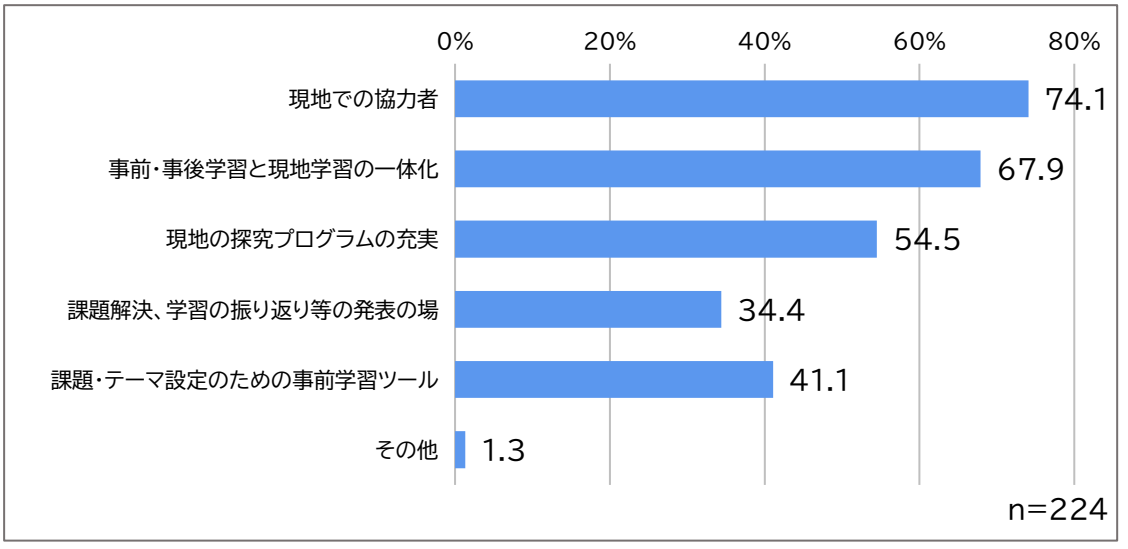
	回答数(件)	公立高校	私立高校	その他
全体	224	48.2	51.3	0.4
現地視察等のフィールドワークを通して	144	46.5	52.8	0.7
テーマ(現地の課題等)を設定し現地企業等と対話的な学び	69	53.6	46.4	-
テーマ(現地の課題等)を設定し現地学生と対話的な学び	73	42.5	57.5	-
テーマ(現地の課題等)を設定し現地住民と対話的な学び	97	46.4	53.6	-
テーマ(現地の課題等)を設定し専門講師と対話的な学び	60	46.7	53.3	-
SDGs関連に紐づくプログラム等を通して	72	38.9	61.1	-
生徒自身が探究したい題材を現地学習の中から模索し解決策を考える	105	46.7	53.3	-
その他	4	75.0	25.0	-

（%）

課題解決の導入方法として、公立・私立高校の比較で最も差が開いた結果となったのは「SDGs関連に紐づくプログラム等を通して」を希望する私立高校の割合が61.1%と最も高く、公立高校との差は22.2%となった。

⑥「探究学習・課題解決学習」を教育旅行先で実施するにあたり必要なもの

「現地での協力者」が74.1%と最も高く、続いて「事前・事後学習と現地学習の一体化」が67.9%となっておりその差は6.2%である。



上記内訳：＜必要なもの別のコンテンツ導入方法＞

		回答数(件)	現地視察等のフィールドワークを通して	テーマ(現地の課題等)を設定し現地企業等と対話的な学び	テーマ(現地の課題等)を設定し現地学生と対話的な学び	テーマ(現地の課題等)を設定し現地住民と対話的な学び	テーマ(現地の課題等)を設定し専門講師と対話的な学び	SDGs関連に紐づくプログラム等を通して	生徒自身が探究したい題材を現地学習の中から模索し解決策を考える	その他
全体		224	64.3	30.8	32.6	43.3	26.8	32.1	46.9	1.8
教育旅行先で実施するにあたり必要なもの「探究学習・課題解決学習」を	現地での協力者	166	72.3	36.7	38.6	49.4	30.1	33.7	47.0	0.6
	事前・事後学習と現地学習の一体化	152	69.1	36.8	35.5	49.3	27.6	40.8	52.0	0.7
	現地の探究プログラムの充実	122	70.5	40.2	38.5	52.5	33.6	38.5	50.0	1.6
	課題解決、学習の振り返り等の発表の場	77	63.6	40.3	35.1	53.2	31.2	39.0	59.7	1.3
	課題・テーマ設定のための事前学習ツール	92	70.7	37.0	32.6	50.0	26.1	44.6	60.9	1.1
	その他	3	33.3	33.3	-	-	-	-	33.3	66.7

（%）

学校の希望する「探究学習・問題解決学習」で一番の重視点（自由記述）

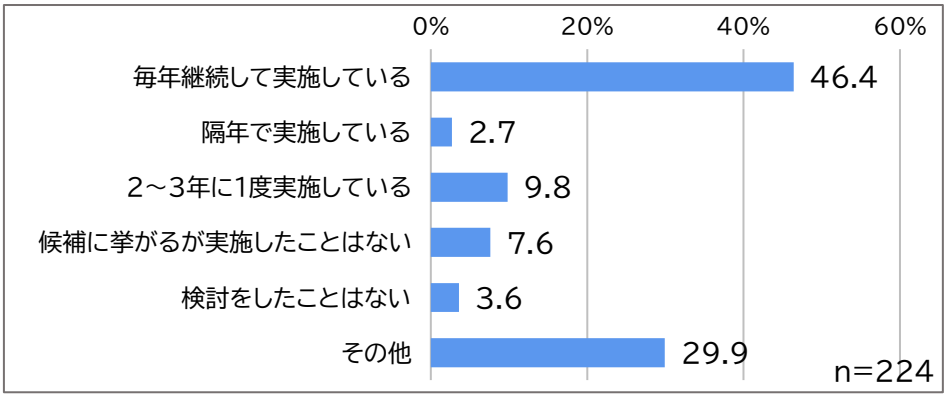
・沖縄ならではの自然環境・科学学習及び平和学習について
・発表の場を設けることが大事であり、全生徒にその機会を与えてあげることが重要かと
・生徒が意欲的に取り組める題材の選定
・地域の課題認識、課題解決のための探究方法
・「調べる」だけでなく、「調べる」「考える」「発表する」
・調べればわかることだけでなく、自分の目で見て、耳で聞き、肌で感じたことをまとめられるようになって欲しい
・社会とつながる学びになる、体験的な課題解決学習
・事前学習において、探究の内容をしっかりと絞り込むこと
・自分たちが住んでいる県、国、地球における問題について、より親近感を持って自分に関わる問題として捉えさせること
・探究学習のスタイル（仮説→検証→結論）を踏まえていること
・学校などで学習した知識などを活かせてなおかつ自ら学習する意欲が沸くもの
・ただ知識を得て終わるのではなく、生徒が社会や自身のあり方に目をひらいていけるような学び
・例年、平和教育や自然・文化・歴史・社会に触れることを目的としています。現地でよく見てよく学ぶために、事前学習には力を入れています。HRだけでなく、社会や理科の授業の中でも沖縄をテーマにした学習を行っています。また、事後学習として、夏休みの課題や文化祭での発表などにも力を入れています。
・事前から事後に至るまで一貫性を持った目的を提供し、その効果を生徒自身のキャリアに活かせるようなプログラムを組むこと
・観光するだけではなく、自ら学びを見つけること
・工業高校であるので、専門分野に関する分野の体験・探求ができること
・東京であれば日本の先端ビジネス、沖縄であれば平和学習、自然体験というようにテーマは変わる。
・課題を設定し、自ら解決する力をつけさす。
・すべて生徒の力で主体的能動的にやるよう指導すること
・各個人が（全員が）興味・関心のあるものを確実に選べるように、充実したラインナップ（選択肢）を準備すること。また、個人でもグループでも取り組める形態を採ること。
・沖縄の人々と触れ合う中で、独特な風土や習慣などさまざまな文化を感じ取り、体験的に学ぶことのできる点
・必要な知識及び技能を身につけて、自立した人になること
・生徒自身が体験を通じて、見て感じて考えることができること
・現地の方との対話的学習
・事前学習から事後学習までを一貫してやり切ること
・生徒自身の問題意識が解決できる

教育旅行先で「探究学習・問題解決学習」を実施するにあたり不足点、要望等（自由記述）

・生徒にとって難しい内容になってしまうことがある
・なかなか時間が取れない事
・現地とのつながり。現地の方との連絡方法がわからない
・色々な施設訪問などする中、日程的に余裕がない
・今はコロナ禍なので、分散すると目が行き届かないし、多人数になると、密になり実施しにくい
・教員の理解度の低さ、どのように実施できるかという知識。実施ノウハウが蓄積されていないこと
・コンテンツの準備、指導内容などのマニュアル
・現在は修学旅行においての探究学習は行っていないが、もし実施した場合、個々設定した多様な課題にうまく対応できるかどうか。その受け入れ先等が確保できるのかどうか
・基地問題や平和教育に関する手に入りやすい資料
・300名弱の人数の受け入れ先
・事前学習の方法
・情報を得るための手段の不足。
・行うとしたらプログラムの一環として教員が見ているだけで良いもの
・自発的な探究学習を行う時間を確保することで、逆に何を削るかを要検討
・現地企業等の訪問を行う場合の障壁として、事前準備期間の確保や2泊３日といった日数制限などなどが挙げられる。
・生徒たちが自ら考え、行動していくこと。
・やむを得ないとはいえ、実際に戦争を経験された方が、年々少なくなっていること。
・活動に理解のある現地での協力者
・対応してくれる人の数が少ない。一つのグループに1人割り当てる環境が必要。
・参加人数が多いため、生徒一人一人の興味関心に結びつくようなプログラムを提供することが難しい。
・教員側の指導経験が浅く、まだまだ探究型学習に対するノウハウの蓄積がない点
・修学旅行先のみで探究学習を終わらせることは不可能であり、修学旅行終了後に学習結果を提出させることになる、修学旅行終了後には学習に切りかえが必要であるが、それが難しくなる
・事前、事後学習を含む、体系的な取り組み
・学習時間、通常の探究活動との接点
・参加する生徒の人数が多いため、説明する者が一人ひとりに丁寧に接することができない
・まだ本格的に実践できていない。実際には時間割の中に組み込むには長期に計画する必要があり、1年次から計画する必要を感じる
・活発に活動するためのテーマと方法を模索している。探究テーマの課題発見の方法論
・探求項目をいくつか提示していただくとありがたいです。グループによる探究に適したテーマの設定
・事前学習のテーマが構築できていないこと
・生徒数が多く、教員も人数が多く経験もさまざまなので、担当する教員（クラス）によって提供するプログラムの内容の差が少しずつ出てしまう。また、業者等仲介する場合もあるが、それでも教員の負担になるところが多く感じる場面がある。今後、コロナ禍も収束していくことを期待し、修学旅行・語学研修といったプログラムはある程度教員の手を離れたものを提供することができれば、より多く活用されるようになるのではないかとも感じる。（例：民泊・離島体験に大学生や社会人等のサポートが入るなど）
・探究活動を進めていくことと、校外学習先での探究活動ができる中身をリンクさせるのが難しい
・探究学習について取り組んでいる団体がより増えたらよいと思います。

沖縄への教育旅行実績

沖縄県の選定状況をみると、「毎年継続して実施している」が46.4%で最も高いことから、訪問学校の多くがリピーターであることがわかる。



教育旅行で取り入れたいコンテンツについて、2～3年に1度沖縄教育旅行を実施している学校と、候補に挙がるが、実施したことはない学校からみてると、「現地視察等のフィールドワークを通して」の要望が最も高く、続いて「現地との対話的な学び」となっている。沖縄方面を検討したことのない学校においては、「現地視察等のフィールドワークを通して」が最も高く、次いで「SDGｓ関連に紐づくプログラム等を通して」となっている。

＜教育旅行で取り入れたいコンテンツ＞

		回答数(件)	現地視察等のフィールドワークを通して	テーマ(現地の課題等)を設定し現地企業等と対話的な学び	テーマ(現地の課題等)を設定し現地学生と対話的な学び	テーマ(現地の課題等)を設定し現地住民と対話的な学び	テーマ(現地の課題等)を設定し専門講師と対話的な学び	SDGs関連に紐づくプログラム等を通して	生徒自身が探究したい題材を現地学習の中から模索し解決策を考える	その他
全体		224	64.3	30.8	32.6	43.3	26.8	32.1	46.9	1.8
教育旅行先に沖縄県を選定したことがあるか	毎年継続して実施している	104	59.6		31.7	51.0	27.9	36.5	51.0	1.9
	隔年で実施している	6	66.7	-	16.7	50.0	33.3	16.7	-	-
	2～3年に1度実施している	22	59.1	50.0	40.9	45.5	22.7	22.7	40.9	-
	候補に挙がるが実施したことはない	17	70.6	64.7	29.4	35.3	29.4	35.3	64.7	5.9
	検討をしたことはない	8	75.0	12.5	25.0	12.5	25.0	37.5	25.0	-
	その他	67	70.1	32.8	34.3	35.8	25.4	28.4	44.8	1.5

%

＜教育旅行で必要なもの＞

		回答数(件)	現地での協力者	事前・事後学習と現地学習の一体化	現地の探究プログラムの充実	課題解決、学習の振り返り等の発表の場	課題・テーマ設定のための事前学習ツール	その他
全体		224	74.1	67.9	54.5	34.4	41.1	1.3
教育旅行先に沖縄県を選定したことがあるか	毎年継続して実施している	104	71.2	67.3	51.9	39.4	44.2	1.0
	隔年で実施している	6	100.0	50.0	50.0	16.7	16.7	-
	2～3年に1度実施している	22	77.3	68.2	59.1	40.9	40.9	4.5
	候補に挙がるが実施したことはない	17	94.1	64.7	70.6	35.3	64.7	-
	検討をしたことはない	8	50.0	75.0	75.0	-	25.0	-
	その他	67	73.1	70.1	50.7	29.9	34.3	1.5

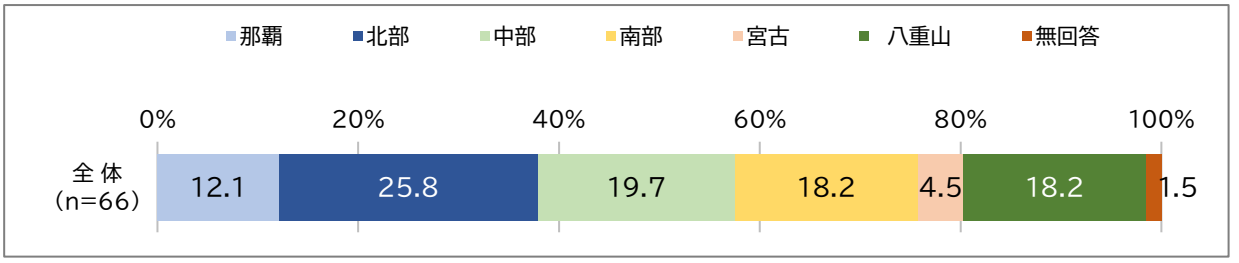
%

調査概要

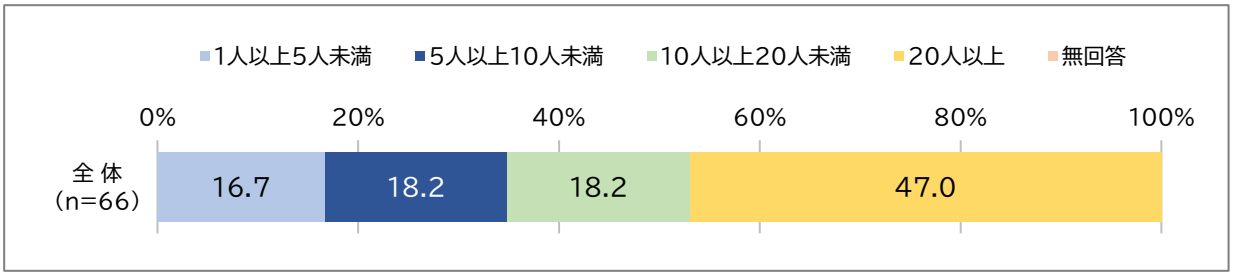
項目	内容
調査対象	県内受入事業者 ・平和学習関連：26社　　・自然・環境学習関連：45社 ・歴史・文化学習関連：28社　　・SDGs学習関連：31社
調査方法	郵送配布及びオンラインWEB調査（FAX 回収、e-mail、WEB回収）
調査期間	令和4年９月１日（木）～９月１６日（金）
配布数	130件（名）
回収数	66件
調査結果の見方	○各調査結果については、原則として、各質問の調査数を基数とした百分率（%）で表している。集計は、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100%にならない場合がある。 ○2つ以上の選択肢を選択できる複数回答の質問の場合、回答比率の合計が100%を超える場合がある。 ○サンプル数が僅少となる属性項目については、比較が変動しやすいため、参考程度の掲載にとどめ結果の利用は注意を要する。

回答事業者の基本情報

①所在地

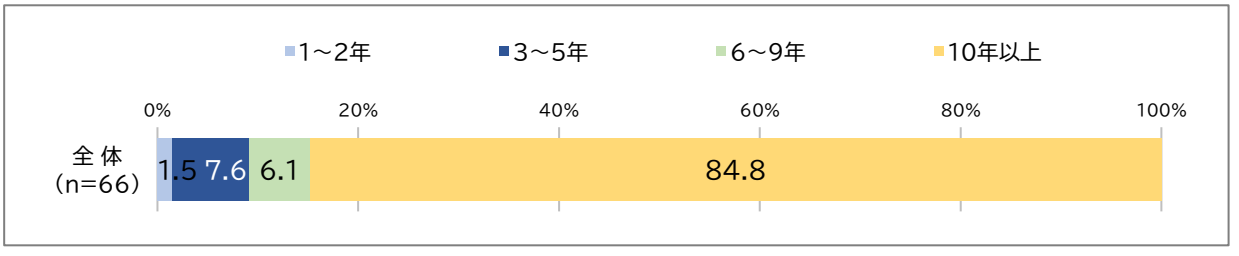


②事業所従業員数



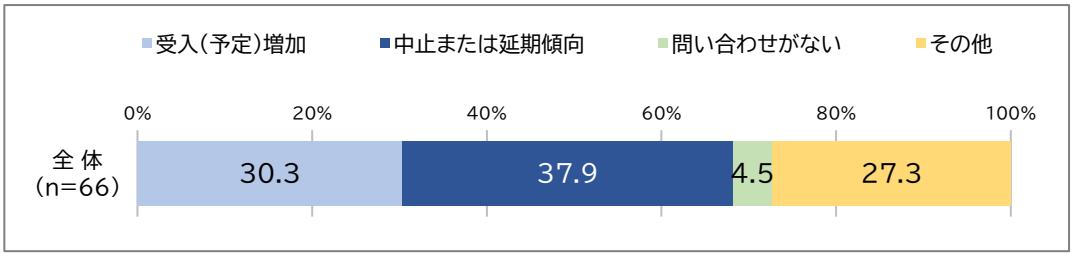
③事業の継続年数

回答事業者の事業の継続年数は、「10年以上」が84.8%と最も多い。



①今年度の教育旅行の2019年度（コロナ前）と比較した受入れ状況

今年度の教育旅行の受入れについて2019年度（コロナ前）と比較して「中止または延期傾向」が37.9%、「受入（予定）増加」が30.3%で、約3割が受入増加傾向となっており、沖縄への教育旅行がコロナ前に戻りつつあることがうかがえる。

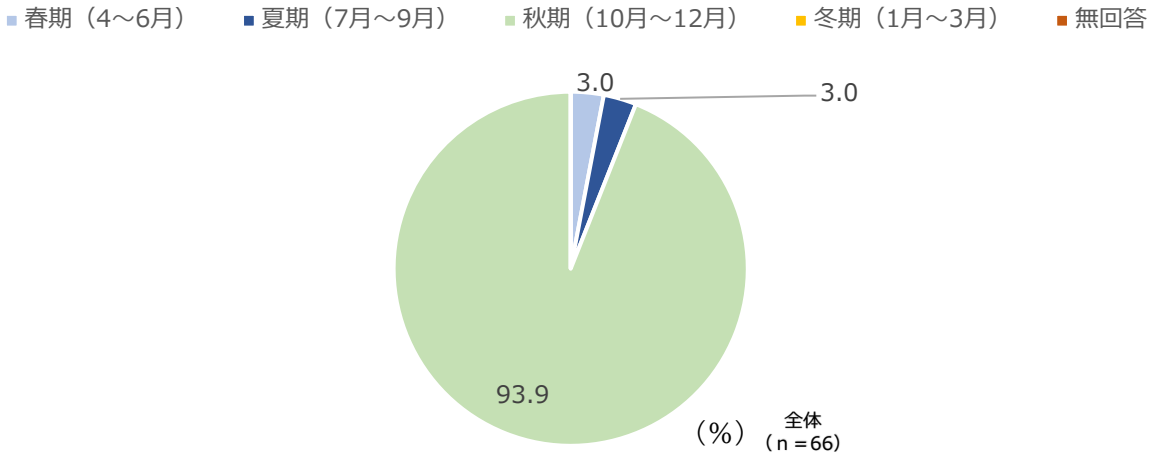


＜その他のご意見＞

- 減少。やや減少。
- 予約はあるが2019年度比べると半分以下。2019年度よりは少ないものの予約は入っている状況。
- 2019年度受入実績なしの為比較不可。もともと修学旅行団体の取扱いが非常に少ない。
- 減少または中止傾向。2019年度に比べ減少しているが、回復傾向。
- コロナ前よりは少ない、前年より増加。コロナ前とほぼ同数の見込み。

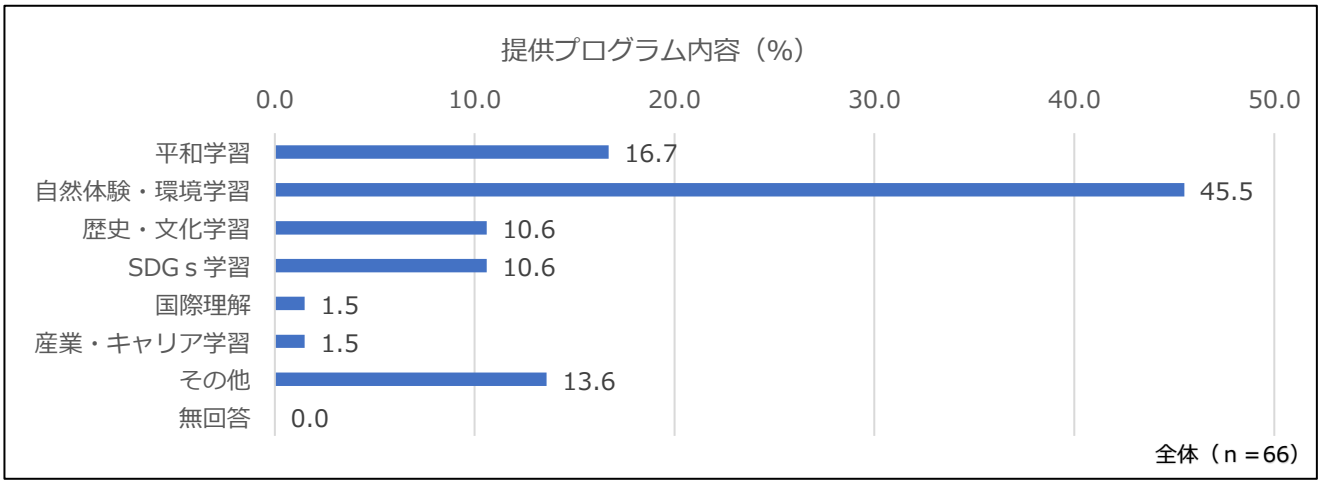
②受入れ時期

「秋期（10月～12月）」が93.9%と最も受入が多い季節となっている。



③提供プログラムの内容

回答事業者の提供している教育旅行の主なプログラムは、「自然体験・環境学習」が45.5%で最も多かった。



＊アンケート依頼先カテゴリー比率

・平和学習20%　・自然体験・環境学習34%　・歴史・文化学習22%　・SDGs学習24%

学校側から満足度の高いプログラム内容

●平和学習

- 「沖縄戦と米軍基地を抱える沖縄の現状を学ぶ事」についてそれぞれ解説者がつく
- 生徒自身に意見を育んでもらう探究型学習や、SDGsに則した多様性を学ぶ学習
- ガマ入壕体験
- 平和学習、教育民泊
- 平和講話・・入壕する前に、慰霊之塔の前で沖縄戦の悲惨さ、平和の尊さについて10分ほどの講話をしている
- リモート講話・沖縄戦の悲惨さ、平和の尊さについて50分ほどの講話をしている
- タヌマチガマでの平和学習、ターガンガマでの平和学習
- 戦争体験講話（語り部）
- 八重山の戦争マラリアについて
- 平和講話は約40分で、元ひめゆり学徒の一人に焦点を当て、沖縄戦が始まる前の学校生活から、生き残った学徒の戦後までを説明する形をとっている。そのうち15分は、元ひめゆり学徒の証言を映像で上映し、体験者の語りが聞けるようにしている。映像であっても「初めて戦争体験者の話を聞いた」（高校生）と受けとめる声や、「生き残った人たちにもつらさがあったとは分からなかった」（教員）「若い職員が伝えようとする姿を見て、後世へ伝えていく大切さを感じた」（高校生）などの感想が寄せられている。証言映像と説明員・学芸員の話を組み合わせたことで、聞き手にとってわかりやすい内容になったと考えている
- 他団体（語り部）による平和講話（当館は会場提供）
- ひめゆりの塔での平和学習

●自然体験・環境学習

- シュノーケル
- マリンアクティビティ
- マリンスポーツ（バナナボート等）
- シュノーケルとバナナボートのセット
- グラスボート乗船、餌やり
- 農場での体験（生ごみのすき込みや野菜の収穫）
- マリンパックメニュー（バナナボート、海水浴）の予約が一番多い。グループ分けローテーションでマリン体験を行っている。人数が多い時は午前と午後に分けて開催
- 海洋研修
- 無人島シーカヤックを通した漂着ごみ問題（マイクロプラスチックやビニールごみのウミガメへの直接的影響）を拾いながら学ぶ、・森林トレッキングにおける自然観察と共に日本軍の炭焼き窯跡や米軍砲弾訓練阻止行動跡から学ぶ世界自然登録までの歴史など、・ヤンバルクイナの保護活動を地域活性化に繋げたことを学ぶクイナ観察等
- バックヤードツアーや館内解説
- 星空ガイド
- ガンガラーの谷ガイドツアー
- 島のレンタサイクル、川カヌー

●歴史・文化学習

- 琉球ガラスグラス作り体験
- シーサー絵付け体験・入村
- 紅型・藍染・陶器・ガラス
- 常設展示室内のシアター上映ではウチナーグチ（沖縄方言）のナレーションで陶工たちの作陶の様子や生活の様子を知ることができる
- 職員が常設展示や地域を案内、解説する

●SDGs学習

- シュノーケリング、ビーチコーミング
- 沖縄をテーマにしたSDGS学習
- 施設の裏側を巡るツアー
- ビーチクリーン体験
- サンゴの苗作り体験

●国際理解

- 英語体験交流会

●その他

- エイサー体験などの芸能体験
- 民家体験（泊）
- 民泊内で行う文化体験・生活体験など
- はた織・草木染体験

④提供プログラムの平均金額

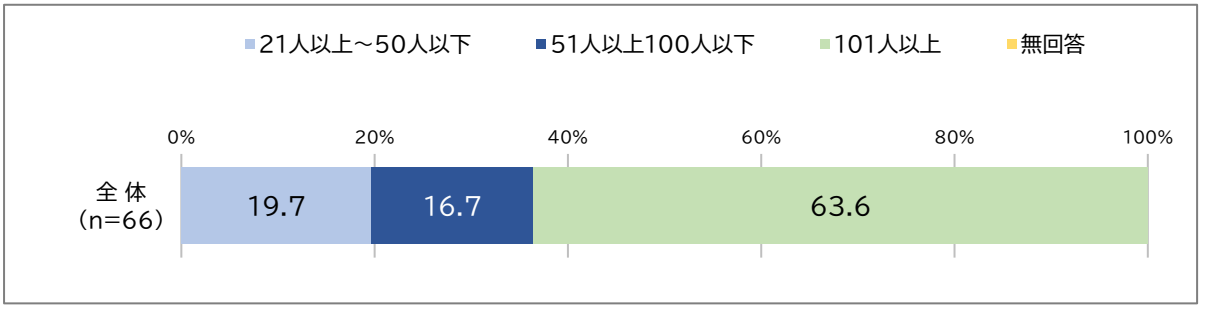
提供している教育旅行プログラムの1人あたりの平均金額は4,033円となっている。

プログラム名	有効回答数(件)	平均金額(円)
平和学習	10	1,437
自然体験・環境学習	30	4,573
歴史・文化学習	7	3,229
SDGs学習	7	4,021
国際理解	1	9,350
産業・キャリア学習	0	0
その他	6	5,486
1人あたりの平均金額		4,033

(n=66)

⑤受入れ可能人数

回答事業者が1度に受入れることができる人数は「101人以上」が63.6%と最も多く、次いで「21人～50以下」が19.7%、「51人～100人以下」16.7%の順であった。



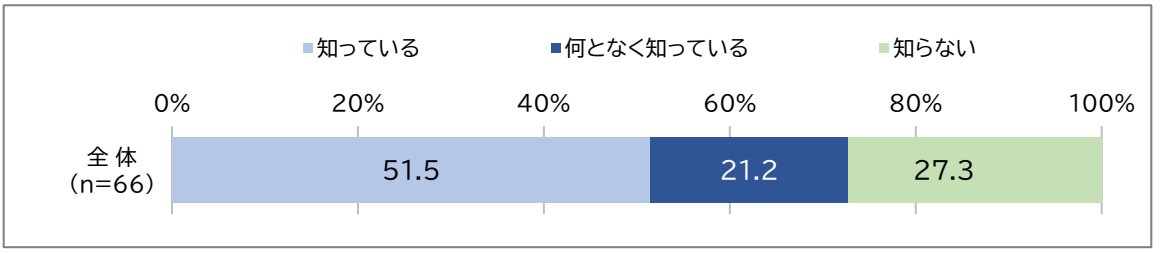
(上記内訳)

提供事業者(プログラム別)	n数	5人以下	6人以上～10人以下	11人以上20人以下	21人以上～50人以下	51人以上100人以下	101人以上
全 体	66	-	-	-	19.7	16.7	63.6
平和学習	11	-	-	-	18.2	-	81.8
自然体験・環境学習	30	-	-	-	10.0	20.0	70.0
歴史・文化学習	7	-	-	-	57.1	14.3	28.6
SDGs学習	7	-	-	-	14.3	28.6	57.1
国際理解	1	-	-	-	-	100.0	-
産業・キャリア学習	1	-	-	-	-	-	100.0
その他	9	-	-	-	33.3	11.1	55.6

(%)

①「探究・課題解決学習」に対するニーズへの認知度

教育旅行で「探究・課題解決学習」を取り入れる学校が増えていることの認知度は、「知っている」が51.5%、「何となく知っている」が21.2%となっており、大半の事業者が探究学習に対する学校のニーズの高まりについて認識していることがうかがえる。



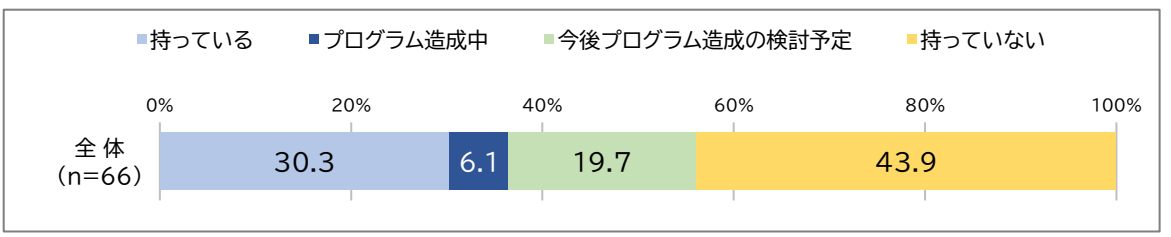
（上記内訳）

提供事業者（プログラム別）	n数	知っている	何となく知っている	知らない
全 体	66	51.5	21.2	27.3
平和学習	11	45.5	18.2	36.4
自然体験･環境学習	30	63.3	13.3	23.3
歴史･文化学習	7	42.9	28.6	28.6
SDGs学習	7	42.9	42.9	14.3
国際理解	1	100.0	-	-
産業･キャリア学習	1	-	-	100.0
その他	9	33.3	33.3	33.3

（%）

②「探究・課題解決学習」プログラムの有無

「探究・課題解決学習」に対応するプログラムについて、「持っている」が30.3%。「プログラム造成中」が6.1%と「今後プログラム造成の検討予定」が19.7%いることから、5割程度の 事業者がプログラム造成への取り組みを進めていることがうかがえる。 特にSDGs学習提供事業者では、「持っている」が57.1%と最も高くなっている。



（上記内訳）

提供事業者(プログラム別)	n数	持っている	プログラム造成中	今後プログラム造成の検討予定	持っていない
全 体	66	30.3	6.1	19.7	43.9
平和学習	11	27.3	18.2	18.2	36.4
自然体験･環境学習	30	36.7	3.3	16.7	43.3
歴史･文化学習	7	14.3	14.3	14.3	57.1
SDGs学習	7	57.1	-	14.3	28.6
国際理解	1	-	-	100.0	-
産業･キャリア学習	1	-	-	-	100.0
その他	9	11.1	-	33.3	55.6

（%）

具体的な「探究・課題解決学習」プログラム（造成中、検討予定含む）

●プログラムを「持っている」の事業者

- サンゴ保全学習。
- ビーチクリーン、アップサイクル体験。
- 環境学習とマリンスポーツを組み合わせたもの。
- 「サンゴの生態と海洋環境について」の講習、サンゴの苗作り体験。
- 海洋レジャーを通したチームビルディング。
- ホテルで取り組んでいる環境保全対策の講話や、自社農場の見学または体験。
- 嘉手納基地の門前町として、沖縄市が戦後の米軍統治下時代からどう発展し現代まで繋がってきたか学ぶ探究型平和学習。地元ガイドとコミュニケーションを取りながらコザのまちを歩き、沖縄市ならではの基地問題や多様性に触れてもらい、ガイドはあくまでも中立的な立場で事実のみを伝え、生徒自身に意見を育んでもらう。
- 基地周辺周回コース。
- SDGs観点（水環境改善・循環型社会）での講演・ディスカッションなど事例紹介。
- SDGsプログラム　開発目標№14　海の豊かさを守ろうをテーマとしたプログラム。
- 自社でやっているSDGsの紹介プログラム。
- SDGsプログラム（固有種保全・ビーチクリーン）。
- 持っている。八重山での平和学習など（戦跡めぐりや体験談のビデオ講話など）。
- 25年前の発足時より、持続可能な（責任ある）感動体験の提供を目指して取組んでいます。
- ジャングルクルーズ・カヌー。
- 沖縄戦の流れから、現在の日本は平和か？考えるプログラム。
- 生徒が住民へ質問し、困りごとや将来像に向けて課題解決を目指す。
- 来館前のオンラインを用いた事前学習など。
- 海に流れ出る赤土を使った陶芸体験
- 既存の体験プログラムを活かした内容で検討している。
- 高校生を対象とした地域探求学習。

●プログラムを「造成中」の事業者

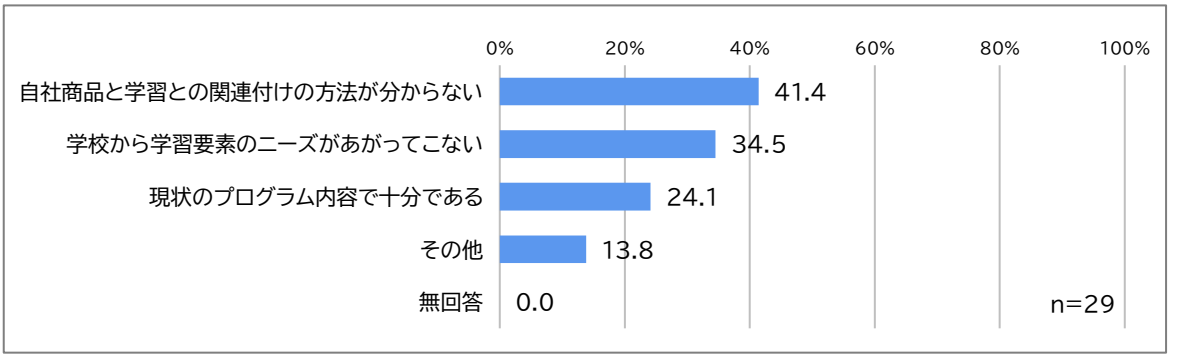
- マングローブ散策ツアー
- 高校生を対象とした地域探求学習
- 平和学習探求プログラム（事前学習・展示見学・見学後のディスカッション）。まずはひめゆり学徒隊の体験を具体的に知って、戦争の実態を理解する。そのうえで、どのように平和を築いていくかを考える探究プログラムです。他団体と共同で開発し、今年度中に実施予定。

●「今後プログラム造成の検討予定」の事業者

- マリン体験に係わるもの
- 同年代との異文化交流
- SDGsに関したプログラム
- 既存の体験プログラムを活かした内容で検討している
- 施設内の設備を生かしたチームビルディング研修

③「探究・課題解決学習」プログラムを持っていない理由（複数回答）

「探究・課題解決学習」に対応するプログラムを持っていない理由は、「自社商品と学習との関連付けの方法が分からない」が41.4%で割合が最も高い。特に、下記の提供事業者（プログラム別）の内訳を見てみると、平和学習関連事業者が75.0%と高い数値になっている。



（上記内訳）

提供事業者（プログラム別）	n数	自社商品と学習との関連付けの方法が分からない	学校から学習要素のニーズがあがってこない	現状のプログラム内容で十分である	その他
全 体	29	41.4	34.5	24.1	13.8
平和学習	4	75.0	25.0	25.0	-
自然体験･環境学習	13	46.2	30.8	15.4	15.4
歴史･文化学習	4	-	75.0	25.0	25.0
SDGs学習	2	50.0	50.0	50.0	-
国際理解	-	-	-	-	-
産業･キャリア学習	1	100.0	-	-	-
その他	5	20.0	20.0	40.0	20.0

（%）

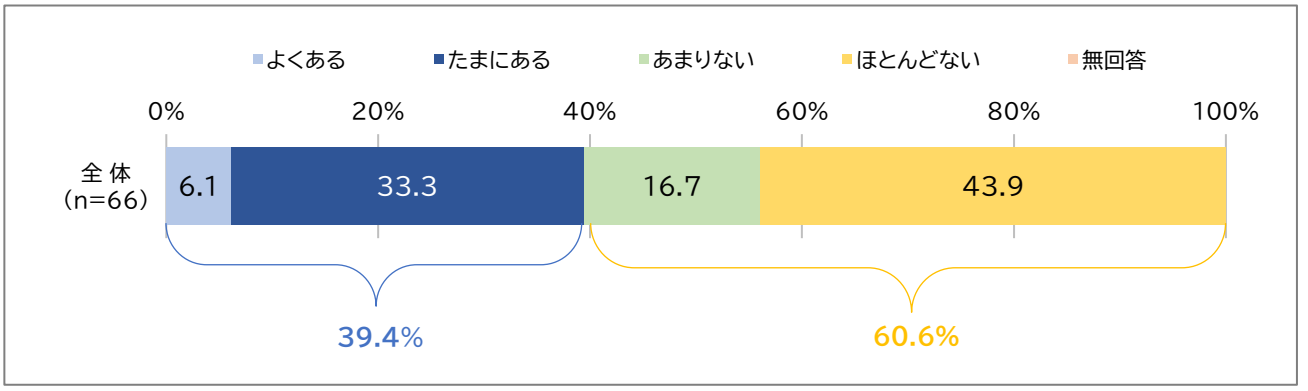
＜その他ご意見＞

・会場のキャパの問題があり、オペレーションの構築が困難
・要望が多岐にわたるため設定として必要なのか要検討
・スタッフ不足/学習プログラムを構築し、受入する余力がない
・要望次第当館で行った事例がない

④「探究・課題解決学習」プログラム提供依頼の有無

学校や旅行社から「探究・課題解決学習」に資するプログラム提供依頼について、「ほとんどない」が43.9%で最も高い。一方で「よくある」と「たまにある」を合わせると39.4%の事業所で依頼されている。

分野別に「よくある」と「たまにある」を合わせた割合を見ると、「SDGs学習」が57.2%、次いで「自然体験・環境学習」が46.7%となっている。「あまりない」と「ほとんどない」を合わせた割合を見ると「歴史・文化学習」が71.4%「平和学習」が63.7%となっている。



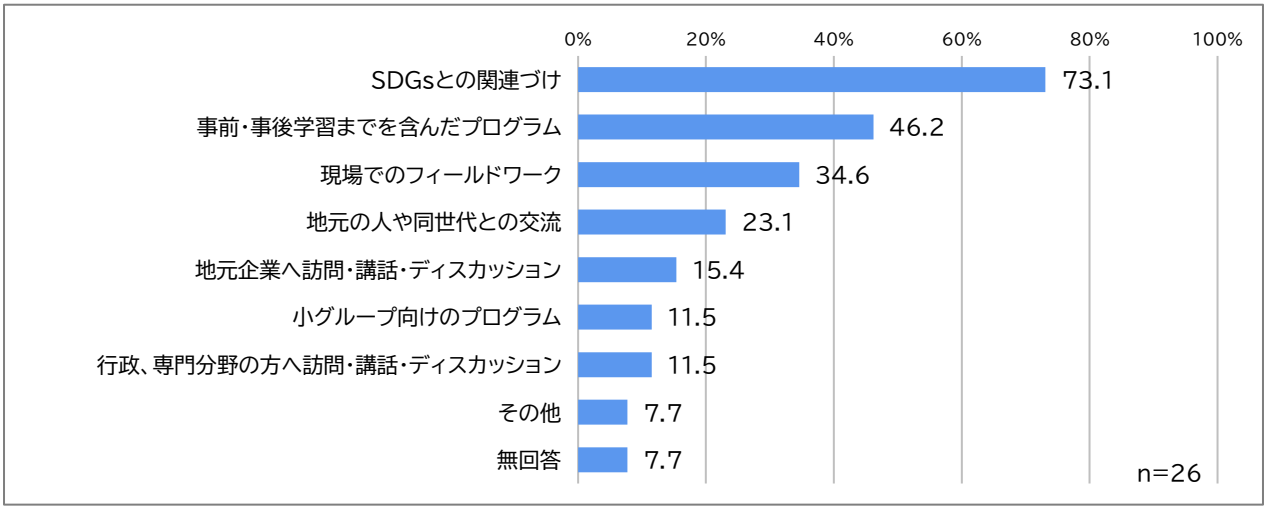
（上記内訳）

提供事業者（プログラム別）	n数	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	無回答	よくある＋たまにある	あまりない＋ほとんどない
全 体	66	6.1	33.3	16.7	43.9	-	39.4	60.6
平和学習	11	-	36.4	27.3	36.4	-	36.4	63.7
自然体験･環境学習	30	10.0	36.7	13.3	40.0	-	46.7	53.3
歴史･文化学習	7	-	28.6	14.3	57.1	-	28.6	71.4
SDGs学習	7	14.3	42.9	-	42.9	-	57.2	42.9
国際理解	1	-	100.0	-	-	-	100.0	-
産業･キャリア学習	1	-	-	-	100.0	-	-	100.0
その他	9	-	11.1	33.3	55.6	-	11.1	88.9

（%）

⑤「探究・課題解決学習」プログラム提供依頼の具体的内容（複数回答）

実際に学校や旅行社から提供依頼されるプログラム内容については、「SDGsとの関連付け」が73.1%で最もニーズが高く、次いで「事前・事後学習まで含んだプログラム」が46.2%「現場でのフィールドワーク」が34.6%と続く。



（上記内訳）

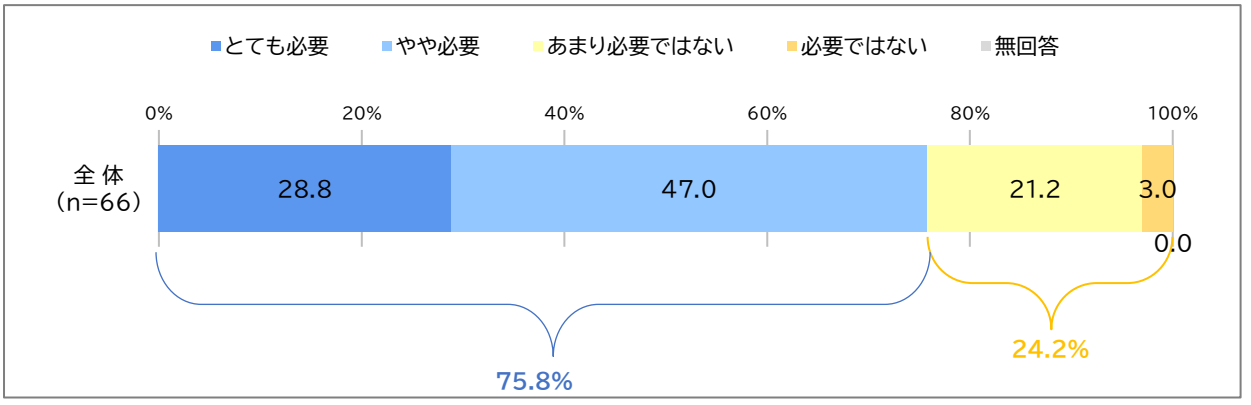
提供事業者（プログラム別）	n数	事前・事後学習までを含んだプログラム	地元の人や同世代との交流	現場でのフィールドワーク	SDGsとの関連づけ	小グループ向けのプログラム	地元企業へ訪問・講話・ディスカッション	行政、専門分野の方へ訪問・講話・ディスカッション	その他	無回答
全 体	26	46.2	23.1	34.6	73.1	11.5	15.4	11.5	7.7	7.7
平和学習	4	25.0	50.0	100.0	75.0	25.0	25.0	25.0	50.0	-
自然体験・環境学習	14	57.1	14.3	35.7	71.4	14.3	14.3	14.3	-	7.1
歴史・文化学習	2	-	50.0	-	100.0	-	-	-	-	-
SDGs学習	4	25.0	-	-	75.0	-	-	-	-	25.0
国際理解	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
産業・キャリア学習	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	1	100.0	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-

（%）

①「探究・課題解決学習」の開発の必要性

「探究・課題解決学習」に資するプログラムの開発を行う必要性について「やや必要」が47.0%で最も高い。「とても必要」と合わせると7割を超え、必要性を感じている事業者多いことが伺える。

提供事業者（プログラム別）の「とても必要」と回答した割合をみると「SDGs学習」の提供事業者が57.1%と最も高く商品造成の必要性を感じている。



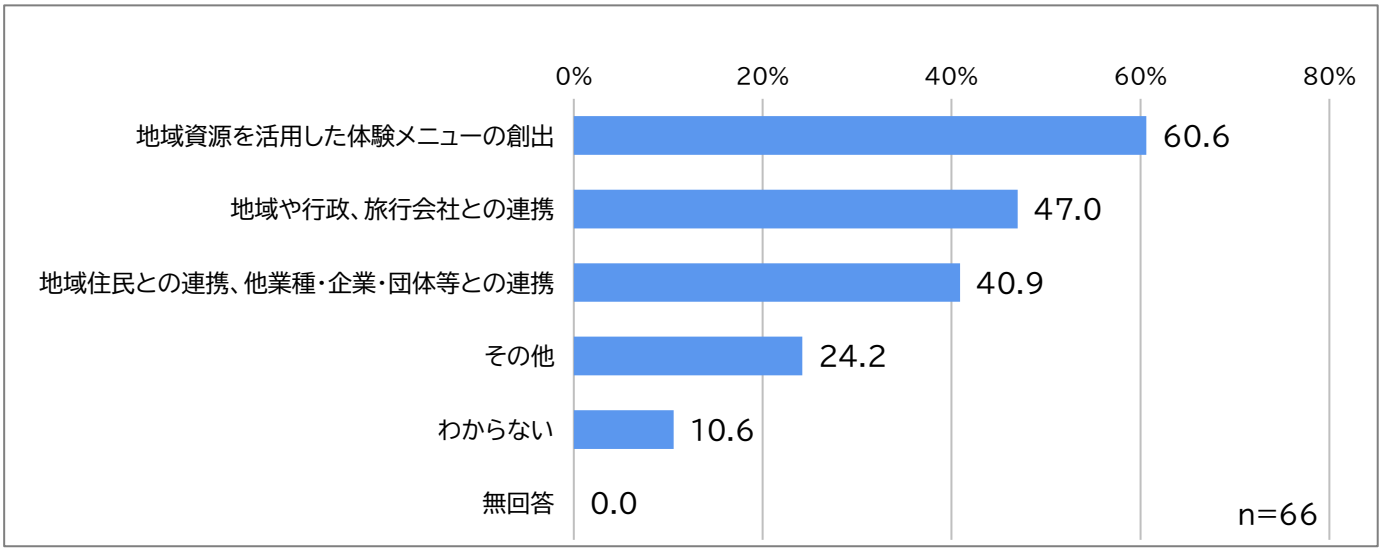
（上記内訳）

提供事業者（プログラム別）	n数	とても必要	やや必要	あまり必要ではない	必要ではない	とても必要＋やや必要	あまり必要ではない＋必要ではない
全 体	66	28.8	47.0	21.2	3.0	75.8	24.2
平和学習	11	36.4	36.4	18.2	9.1	72.8	27.3
自然体験･環境学習	30	23.3	53.3	23.3	-	76.6	23.3
歴史･文化学習	7	28.6	42.9	28.6	-	71.5	28.6
SDGs学習	7	57.1	42.9	-	-	100.0	-
国際理解	1	-	100.0	-	-	100.0	-
産業･キャリア学習	1	-	-	-	100.0	-	-
その他	9	22.2	44.4	33.3	-	66.6	33.3

（%）

②「探究・課題解決学習」プログラム開発にあたっての必要事項（複数回答）

「地域資源を活用した体験メニューの創出」が60.6%で最も高い。次いで「地域や行政、旅行会社との連携」が47%、「地域住民との連携、他業種・企業・団体等との連携」が40.9%の順となっており、探究学習プログラムの開発においては、他者との連携を必要と感じている事業者が多いことがうかがえる。



（上記内訳）

提供事業者（プログラム別）	n数	地域資源を活用した体験メニューの創出	地域住民との連携、他業種・企業・団体等との連携	地域や行政、旅行会社との連携	わからない	その他
全 体	66	60.6	40.9	47.0	10.6	24.2
平和学習	11	72.7	45.5	45.5	18.2	27.3
自然体験・環境学習	30	70.0	36.7	43.3	6.7	23.3
歴史・文化学習	7	28.6	42.9	57.1	14.3	28.6
SDGs学習	7	57.1	42.9	57.1	-	28.6
国際理解	1	-	100.0	-	-	-
産業・キャリア学習	1	-	-	100.0	-	-
その他	9	55.6	44.4	44.4	22.2	22.2

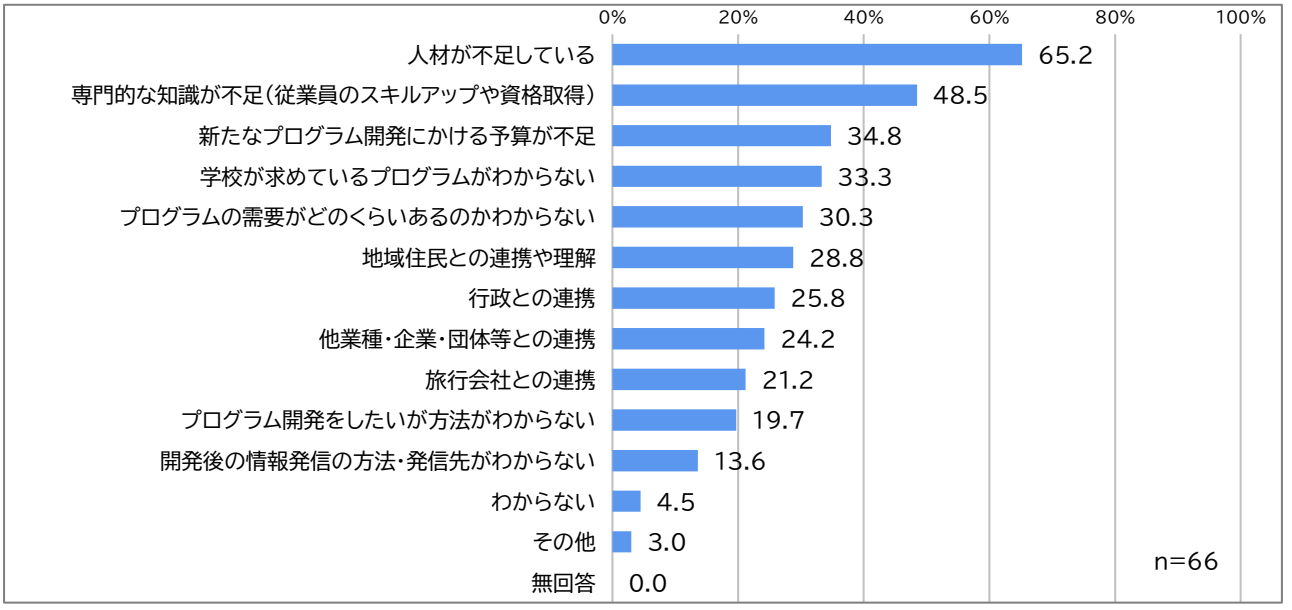
（%）

＜その他のご意見＞

- 人材育成の為の専門家の派遣や研修等の充実、従業員のスキルアップや資格取得、プログラムに関する情報発信
- 人材育成の為の専門家の派遣や研修、地域資源を活用した体験メニューの創出
- 人材育成の為の専門家の派遣や研修、他の先進地域の事例
- 施設管理に多大な時間が必要で、プログラム開発を考えるゆとりが無い為、あえてゆうなら、時間のゆとり
- 従業員のスキルアップ、沖縄ならではの南国、亜熱帯の独特の自然環境
- 当事業所の設立意義に合致
- 沖縄ならではの強みを活かす事
- プログラムに必要な器具や物品など
- 沖縄ならではの強みを生かすこと。他の先進地域の事例を知りたい
- 企画や実施までの行政や旅行会社のサポート。
  沖縄ならではの強みを活かすこと、異文化体験（衣・食・住・祭り）

探究学習プログラム開発の課題

最も「探究・課題解決学習」に資するプログラムの開発にあたり課題と感じるのは「人材が不足している」が65.2%で割合が高く、次いで「専門的な知識が不足（従業員のスキルアップや資格取得）」の48.5%となっている。



（上記内訳）

提供事業者（プログラム別）	n数	地域住民との連携や理解	他業種・企業・団体等との連携	旅行会社との連携	行政との連携	新たなプログラム開発にかける予算が不足	専門的な知識が不足(従業員のスキルアップや資格取得)	人材が不足している
全 体	66	28.8	24.2	21.2	25.8	34.8	48.5	65.2
平和学習	11	36.4	27.3	27.3	27.3	54.5	54.5	63.6
自然体験・環境学習	30	26.7	26.7	23.3	26.7	30.0	36.7	73.3
歴史・文化学習	7	42.9	-	14.3	28.6	28.6	57.1	42.9
SDGs学習	7	28.6	42.9	28.6	28.6	42.9	71.4	71.4
国際理解	1	100.0	100.0	-	100.0	100.0	-	-
産業・キャリア学習	1	-	-	-	-	-	-	-
その他	9	11.1	11.1	11.1	11.1	22.2	66.7	66.7

提供事業者（プログラム別）	n数	学校が求めているプログラムがわからない	プログラム開発をしたいが方法がわからない	開発後の情報発信の方法・発信先がわからない	プログラムの需要がどのくらいあるのかわからない	わからない	その他	無回答
全 体	66	33.3	19.7	13.6	30.3	4.5	3.0	-
平和学習	11	18.2	18.2	18.2	27.3	9.1	-	-
自然体験・環境学習	30	46.7	16.7	10.0	33.3	-	3.3	-
歴史・文化学習	7	28.6	-	-	14.3	14.3	-	-
SDGs学習	7	28.6	14.3	-	14.3	-	-	-
国際理解	1	-	100.0	100.0	-	-	-	-
産業・キャリア学習	1	-	-	-	-	-	100.0	-
その他	9	22.2	44.4	33.3	55.6	11.1	-	-

（%）

島しょ県ならではの沖縄教育旅行に関する県内事業者からのご意見、ご要望

●ご意見

- 都会／地方、温暖環境／亜熱帯環境、地続き／離島など「ないものねだり」を価値に置き換える観点で、教育価値を持ちながら眠っているコンテンツは多いと思っています。
- 最近は、海外からの振替特需で異常なまでに増加傾向にある。それがゆえに、各離島での各種アクティビティーや交通キャパが不足し、取り合いとなっている。今年と来年の秋口の時期については、既にお断りせざるを得ない状況が発生し、ひいては一般団体の受入にも悪影響を及ぼし始めている。人手不足やキャパの問題が大きいが、コロナ前の状況には戻ることはないと思われる。新しい時代の観光のあり方を考える時期に来ているような気がする。
- 沖縄教育旅行の誘致に対して、沖縄離れがある中でみなさんで危機感を持った方が良い。
- 潮位の関係で学校側の希望日に受け入れが出来ない日がある。無人島の為、石垣市からのアクセスが悪く、島内受入人数に制限がある。
- 2021年7月に沖縄地区（やんばる、西表島）が世界自然遺産に登録されました、亜熱帯の独特の自然環境の学習はいいと思います。沖縄県、OCVBでも今まで以上にやんばる地区や西表島地区にむけた修学旅行団体の誘致活動が必要と感じます。
- 私のフィールドでは人間を含めた生態系を観察の体験を通して学び世界自然遺産に登録されたやんばるは昔から生活文化で利用しながらも守ってきた歴史や自然遺産になる前から自然環境の保護、保全を地域活性化の中心におき、活動してきた沿革などもフィールドでの体験を通して伝えています。
- 航空機に乗らないと沖縄に来ることができないので、航空機の運航や料金・予約が取れないなどの不安がある。
- 修学旅行シーズンの集中により、県外からの教育旅行プランの時間が少ない。シーズンをバラけさせる事により充実できるのでは？

●ご要望

- 修学旅行自体は遂行されるケースが増えてきていますが、方面変更で沖縄行きのキャンセルが未だに発生します。沖縄県が先頭にたって、沖縄修学旅行復活に向けて本気で取り組んでいただきたく思います。
- 今回の様な感染症などの発生時に親御さんの移動の関係もあり「飛行機」を使っての移動が保護者会などで懸念され予約が取り消しになった学校が多く見受けられました。その点など何かもっと県としてサポートが出来、デメリットが減る方法があればありがたく思いました。
- 地元民との交流ツアー
- 他県には無い外国籍の方が働ける環境作りや各公共施設、基地内の同年代との交流会、ＯＩＳＴの見学等、積極的に活用したい、また、そういうニーズが増えてきている。そう言った事を相談出来る窓口が欲しいです。
- 殆どの地域でネックとなっているのが航空代だと思いますので何かしら支援をして頂きたい。又、こちらは離島となるのでフェリー代も何かしら支援の方法が有れば・・・
- 平和学習と沖縄の自然に関するバランスを考えてセールスする必要。平和学習は押しつけは良くないが事前学習の必要性をお願いする。
- 唯一の亜熱帯気候の生態系や異文化を活かした旅行プランの造成。
- 旅行費用の多くを占める航空運賃への助成やもしくは現地での体験学習費用への助成をお願いしたい。
- 離島のバス運転手不足は深刻な問題となっています。募集しても来ない、バスはあるのに動かせない等、対策を強化する必要があります。

■出発地側の要望

教育旅行の訪問先として、沖縄は人気が高く訪問先の選定では、学校のテーマ・目的に合っているかが重視されている。

■旅行会社側の要望

今後旅行会社が考える取り入れて欲しいコンテンツとしては、教育旅行先で「SDGｓ関連を含む　探究学習」のニーズが高く、訪問先での探究学習プログラムの充実や、事前・事後学習と現地学習の一体化が特に求められている。

■学校側の要望

教育旅行先で重視し、学習効果が高かったと感じるコンテンツとしては「平和学習」が上位を占めている。
今後重視したいコンテンツとして「探究・課題学習」が上位にあがるため、平和学習と探究学習を関連付けたプログラムのニーズや、現地における協力者等のサポートが求められている。

■着地側（県内受入事業者）の課題

出発地側の求めている探究学習プログラムを持っていない事業者が多く、プログラム造成の必要性を感じている事業者もいるものの、開発するには地域資源を活用した体験メニューの創出が必要であり他者との連携が必要である。

また、専門知識や人材が不足しており、従業員のスキルアップや資格取得の必要性が課題となっている。

解決策の提案

出発地側からの要望に応えるためには、受入側の課題解決が深く結びついており、今後教育旅行先として選定される為にも重要事項である。

①教育旅行における探究学習プログラムの提案

教育旅行を「探究の場」と捉える学校にとって、学校の日々の学習と結びつける提案は重要である。学校のニーズに応えるため沖縄県や受入事業者等による「事前学習・現地体験・事後学習」の一連プログラムの提案や、事前・事後学習教材の提供等は学校側より期待されるところであり、教育的価値を高めるために必要である。

また、「探究×SDGs学習」「探究×平和学習」「探究×自然体験」「探究×地域課題」など各教科内容と関連付け、既存のプログラムに「探究」の要素を加えることで様々な分野を通した提案が可能となる。

提案プログラムを土台として学校の探究学習に対する意向を引き出し、サポートしながら共に作り上げることで各学校に見合ったオーダーメイドのプログラムとして提供できる幅が広がる。

【地理探究プログラムイメージ】

◆事前学習

地域の情報や地理的特徴を収集し、地域の社会的な課題を設定。さらに、自分なりの課題解決に向けた考察を行う。

◆現地調査

実際に現地で観察や聞き取り調査を行い情報を収集し、新たな課題発見、より具体的な地域の現状を踏まえ、グループ等での意見交換や課題解決を模索。

◆事後学習

現地での体験を振り返り、聞き取った内容や課題解決策を議論する報告会等を開催。相互理解を深め、何ができるようになり、今後に生かしていけるのか生徒に必要な資質・能力を引き出す。

②専門講師派遣等による知識向上

県内受入事業者実態調査より「探究学習に対する学校のニーズ」について、認識している事業者が多い事が伺えるものの、実際に探究学習プログラムを有している事業者は、3割程度となっている。

プログラムを有していない事業者の理由として「自社商品との関連付けの方法がわからない」「現状のプログラム内容で十分である」「学校側からニーズがあがってこない」等があげられており、県内受入事業者全体の機運造成への取組が必要であると考える。

今後、学校の多様なニーズに応えるためには、探究学習等に関する知識向上のための人材育成が必要であり、探究学習の先進的な取り組みの事例紹介や、教育現場に精通している専門家派遣等を行うことで多様化する学校側のニーズを事業者側が理解し、既存の商品の紐づけに繋げる機会を提供する。

③受入体制構築への取組

目的を同じくしている人々が集まり、ネットワーキング等の「異業種交流会」を行うことで、共に議論する機会となり、新しいアイディアの創出、人脈拡大を通して新規人材の創出、人材育成に繋げる。

また、探究学習に精通したHUBとなりえる人材・企業と連携を強化し、探究学習で求めれれている現地での協力者の要望に応えられる仕組みを構築する。

第８章. アンケート票（県外旅行会社向け）

沖縄修学旅行商品造成支援に係るアンケート調査
＜県外旅行会社向け＞

※所要時間【5～10 分程度】
本調査結果は今後、沖縄修学旅行における商品プログラム造成の為に広く活用してまいります。

問1.　はじめに、貴社で取り扱っている学校の基本情報についてうかがいます。（○はそれぞれ１つ）

1)取り扱いの対象校	1.中学校	2.高等学校
2)取り扱い校の所在地	（	都・道・府・県）

問2.　取り扱い学校の今年度実施（予定）している教育旅行先地域について教えてください。（○はいくつでも）

1. 北海道	2. 東北	3. 関東
4. 北陸	5. 関東	6.近畿
7.中国	8.四国	9.九州
10. 沖縄	11. その他（　　）	

問3.　（令和４年７月現在）取扱校の教育旅行実施状況は昨年から変化はありますか。（○はひとつ）

1.実施訪問地域の変化はない	2.近隣都道府県に変更した
3.その他（　　）	

問4.　学校が訪問先を選定するにあたり、重視している点は何ですか。（○はひとつ）

1.学校のテーマや目的に合っているか	2.費用
3.近隣都道府県での実施	4. 学校の過去の実績や継続状況
5.その他（　　）	6. わからない

問5.　下記の質問に対し項目 1～16 の中から 1 位～3 位まで順位をつけて下さい。あてはまる番号を記入してください。

質問	1 位	2 位	3 位
1)今まで実施した教育旅行の中で、学校に人気の高いコンテンツは何ですか			
2)教育旅行先で探究・課題解決学習に取り入れた方が必要だと思うコンテンツは何ですか。			

1.歴史学習	2.自然・環境・科学学習	3.平和学習
4.スポーツ体験	5.芸術・文化体験	6.産業・ものづくり体験
7.震災・防災学習	8.地元・郷土料理等の食文化体験	9.寺社・仏閣等での体験
10.農漁業体験・グリーンツーリズム	11.キャリア体験・学習	12.語学・グローバル体験・異文化学習
13.民泊・ホームステイ	14.探究学習	15.SDGs 関連
16.その他（　　）		

～「探究学習・問題解決学習」についてご質問です～

問6.　旅行会社の視点で、今後の教育旅行先でどのように「探究学習・問題解決学習」を行う必要があると思いますか。（あてはまるもの全てに○をつけてください）

1. 現地視察等のフィールドワークを通して	2. テーマ（現地の課題等）を設定し現地企業等と対話的な学び
3. テーマ（現地の課題等）を設定し現地学生と対話的な学び	4. テーマ（現地の課題等）を設定し現地住民と対話的な学び
5. テーマ（現地の課題等）を設定し専門講師と対話的な学び	6. SDGs 関連に紐づくプログラム等を通して
7. 生徒自身が探究したい題材を現地学習の中から模索し解決策を考える	8. その他（自由記述）

問7.　「探求学習・問題解決学習」に即した商品についてどのような課題があると思いますか。（自由記述）

～沖縄教育旅行についてのご質問です～

問8.　訪問先として、沖縄への意向や訪問検討の可能性はあると思いますか。

1.継続して訪問意向の学校がある	2.相談は受けるが実施できていない
3.検討の余地はない	4.わからない
5. その他（　　）	

問9.　沖縄の教育旅行コンテンツについて、あてはまるものに□にチェックを入れてください。

	人気が高い	実施している	満足度が高い	今後も紹介していく
平和学習	□	□	□	□
自然・環境・科学学習	□	□	□	□
歴史・文化学習	□	□	□	□
スポーツ体験	□	□	□	□
産業・ものづくり体験	□	□	□	□
芸術・文化体験	□	□	□	□
農漁業体験・グリーンツーリズム	□	□	□	□
キャリア体験・学習	□	□	□	□
SDGs 関連	□	□	□	□

問10. 沖縄育旅行で体験コンテンツや受入体制等に課題等ありましたら記入をお願いします。（自由記述）

問11. 最後に、教育旅行に関するご意見、ご要望がございましたら記入をお願いします。（自由記述）

本調査結果は今後の沖縄教育旅行商品造成支援に広く活用してまいります。
調査にご協力いただきありがとうございました。

－ 2 －

アンケート票（県外学校向け）

沖縄教育旅行商品造成支援に係るアンケート調査
＜沖縄県外学校向け＞

※所要時間【5～10 分程度】
本調査結果は今後、沖縄修学旅行における商品プログラム造成の為に広く活用してまいります。

QR コードからも回答できます

問1.　貴校についてうかがいます。(○は 1 つ)

1)学校形態	1 .公立　2. 私立　3.その他(　　)
2)学校の所在地	(　　都・道・府・県)
3)在籍生徒数	(　　名)

問2.　貴校の今年度の教育旅行についてうかがいます。

1)実施状況	1.実施した・実施予定　2.計画したが中止した 3.実施予定はない　4.その他(　　)
2)訪問先(検討先)	1.国内(　　都・道・府・県)　2. 国外(　　)
3) 2)で回答した訪問先の継続状況	1.前回と同じ 2.前回と異なる(前回:　　都・道・府・県)
4)実施学年	1.1 年生　2.2 年生　3.3 年生　4. その他(　　)
5)参加人数	1.50 名以下　2.51名～100名 3.101 名～200 名　4.200名以上
6)1 人あたりの参加費用	①貴校規定の上限額　(　　円) ②実際の金額　(　　円)
7)教育旅行の実施時期	1.春期(4～6 月)　2.夏期(7～9 月) 3.秋期(10～12 月)　4.冬期(1～3 月)
8)教育旅行で班別・探究活動にあてられる日数	1. 半日　2. 1 日 3. 2 日　4. その他

- 1 -

問 3. 下記 1～5 のコンテンツで生徒一人あたりの教育旅行予算はどのくらいですか。
(あてはまるものを一つ選び○をつけてください)

1)平和学習	1.(1000 円～3000 円未満)　2.(3000 円以上～5000 円未満) 3.(5000 円以上)　4.その他(　　)
2)探究・課題解決学習	1.(1000 円～3000 円未満)　2.(3000 円以上～5000 円未満) 3.(5000 円以上)　4.その他(　　)
3)マリン・スポーツ体験	1.(1000 円～3000 円未満)　2.(3000 円以上～5000 円未満) 3.(5000 円以上)　4.その他(　　)
4)自然・環境学習	1.(1000 円～3000 円未満)　2.(3000 円以上～5000 円未満) 3.(5000 円以上)　4.その他(　　)
5)歴史・文化学習	1.(1000 円～3000 円未満)　2.(3000 円以上～5000 円未満) 3.(5000 円以上)　4.その他(　　)
6)探究・課題解決の事前事後学習にあてられる予算	1.(1000 円～3000 円未満)　2.(3000 円以上～5000 円未満) 3.(5000 円以上)　4.その他(　　)

問 4. 下記の質問に対し項目 1～16 の中から 1 位～3 位まで順位をつけて下さい。

質問	1 位	2 位	3 位
1)教育旅行で重視している内容は何ですか			
2)今後重視したい内容は何ですか			
3)今まで実施した教育旅行の中で、生徒にとって学習効果のあったコンテンツは何ですか			
4)教育旅行先で探究・課題解決学習に取り入れたいコンテンツは何ですか。			

【項目 1～16】

1.歴史学習	2.自然・環境・科学学習
3.平和学習	4.スポーツ体験
5.芸術・文化体験	6.産業・ものづくり体験
7.震災・防災学習	8.地元・郷土料理等の食文化体験
9.寺社・仏閣等での体験	10.農漁業体験・グリーンツーリズム
11.キャリア体験・学習	12.語学・グローバル体験・異文化学習
13.民泊・ホームステイ	14.探究学習
15.SDGs 関連	16.その他(　　)

- 2 -

～「探究学習・問題解決学習」についてご質問です～

問 5. 教育旅行先でどのように「探究学習・問題解決学習」を行いたいですか
(あてはまるもの全てに○をつけてください)

1. 現地視察等のフィールドワークを通して	2. テーマ(現地の課題等)を設定し現地企業等と対話的な学び
3. テーマ(現地の課題等)を設定し現地学生と対話的な学び	4. テーマ(現地の課題等)を設定し現地住民と対話的な学び
5. テーマ(現地の課題等)を設定し専門講師と対話的な学び	6. SDGs 関連に紐づくプログラム等を通して
7. 生徒自身が探究したい題材を現地学習の中から模索し解決策を考える	8. その他 (自由記述)

問 6.「探究学習・問題解決学習」を教育旅行先で実施するにあたり必要なものは何ですか。
(あてはまるもの全てに○をつけてください)

1. 現地での協力者	2. 事前・事後学習と現地学習の一体化
3. 現地の探究プログラムの充実	4. 課題解決、学習の振り返り等の発表の場
5.課題・テーマ設定のための事前学習ツール	6. その他 (自由記述)

問 7. 貴校の希望する「探究学習・問題解決学習」で一番重要視していることは何ですか。(自由記述)

問 8. 教育旅行先で「探究学習・問題解決学習」を実施するにあたり不足していること、お困りな点やご要望等がございましたら教えてください。(自由記述)

問 9. 教育旅行先に沖縄県を選定したことはありますか。(あてはまるものを一つ選び○をつけてください)

1. 毎年継続して実施している	2. 隔年で実施している
3. 2～3 年に 1 度実施している	4. 候補に挙がるが実施したことはない
5. 検討をしたことはない	6. その他 (自由記述)

- 3 -

～ご協力いただきありがとうございました。～

沖縄教育旅行商品造成支援に係るアンケート調査
＜沖縄県外学校向け＞追加項目

お手数をおかけしますが、下記項目につきましてもご回答頂きたく、
よろしくお願いいたします。

問3
6)探究・課題解決の事前事後学習にあてられる予算

1.(1000円～3000円未満)　2.(3000円以上～5000円未満)
3.(5000円以上)　4.その他(　　)

全設問、WEBから簡単にご回答頂けます。是非、ご利用ください。

PC用:https://forms.gle/SsEBYekYvYA1vs3y9

QRコード

アンケート票（県内受入事業者向け）

沖縄教育旅行商品造成支援に係るアンケート調査
＜県内受入事業者向け＞

※所要時間【5～10 分程度】
本調査結果は今後、沖縄教育旅行における商品プログラム造成の為に広く活用してまいります。

回答 URL：https://forms.gle/c97E62ue4FY5Gbby8

QR コードからもご回答いただけます

＜県外からの教育旅行に関しておうかがいします。＞

問1.　貴事業者の基本情報について教えてください。（それぞれ○はひとつ）

①所在地（市町村名）	（　　市・町・村）
②事業所従業員数 （パート等の臨時職員、役員も含む）	1. 1人以上5人未満 2. 5 人以上 10 人未満 3. 10 人以上 20 人未満 4. 20 人以上
③事業の継続年数	1. 1～2年　2. 3～5 年 3. 6～9年　4. 10 年以上

問2.　今年度の教育旅行の受入れについて 2019 年度（コロナ前）と比べた状況について教えてください。（○はひとつ）

1.　受入（予定）増加	2.　中止または延期傾向
3.　問い合わせがない	4. その他（　　）

問3.　貴事業所での教育旅行の受入れで1番多い時期について教えてください。（○はひとつ）

1. 春期（4～6月）	2. 夏期（7月～9 月）
3. 秋期（10 月～12 月）	4. 冬期（1 月～3 月）

1

問4.　貴事業所で扱う教育旅行を対象とした提供プログラムの主な内容について教えてください。（○はひとつ）

1. 平和学習	2. 自然体験・環境学習
3. 歴史・文化学習	4. SDGs学習
5. 国際理解	6. 産業・キャリア学習
7. その他（　　）	

問5.　問４で選んだ回答の具体的なプログラム内容を教えてください。（自由記述）

問6.　学校側から満足度が高い（評価がある）プログラムについて具体的に教えてください。（自由記述）

問7.　貴事業所で提供している教育旅行プログラムの1人あたりの平均金額を教えてください。（数字を記入）

1 人あたり平均金額（　　）円

問8.　貴事業所で1度に受入れることができる人数を教えてください。（○はひとつ）

1.　5人以下	2. 6 人以上～10 人以下
3. 11 人以上 20 人以下	4. 21 人以上～50 人以下
5. 51 人以上 100 人以下	6. 101 人以上

2

～「探究学習・課題解決学習」についてのご質問です～

現在の学習指導要領においては、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点に立った学習が求められており、教育旅行においてもそのような学びが実践できる内容の需要が大きくなっているところです。
それを踏まえた上で、以下のことをうかがいます。

問9. 教育旅行で「探究・課題解決学習」を取り入れる学校が増えているのをご存じですか。（○はひとつ）

1.　知っている　2.　何となく知っている　3. 知らない

問10. 貴事業所では「探究・課題解決学習」に対応するプログラムはお持ちですか。（○はひとつ）

1. 持っている　2. プログラム造成中　3. 今後プログラム造成の検討予定　4. 持っていない

問 11.　「問 10 で 1～3」を回答いただいた方にうかがいます。どのようなプログラムをお持ちですか。（もしくは造成中、検討予定ですか。）

問12. 問10で「4.持っていない」と回答した方にうかがいます。その理由を教えてください。（○はいくつでも）

1. 自社商品と学習との関連付けの方法が分からない
2. 学校から学習要素のニーズがあがってこない
3. その他（　　）

3

問12. 学校や旅行会社から「探究・課題解決学習」に資するプログラムの提供をお願いされることはありますか。（○はひとつ）

1.　よくある　2.　たまにある　3. あまりない　4. ほとんどない

問13. 問12で「1. よくある」「2. たまにある」と回答した方にうかがいます。実際にどのようなプログラムをお願いされますか。（○はいくつでも）

1. 事前・事後学習までを含んだプログラム
2. 地元の人や同世代との交流
3. 現地でのフィールドワーク
4. SDGs との関連づけ
5. 小グループ向けのプログラム
6. 地元企業へ訪問・講話・ディスカッション
7. 行政、専門分野の方へ訪問・講話・ディスカッション
8. その他（　　）

問14.「探究・課題解決学習」に資するプログラムの開発を行う必要性をどの程度感じていますか。（○はひとつ）

1. とても必要　2. やや必要　3. あまり必要ではない　4. 必要ではない

問15.「探究・課題解決学習」プログラムで沖縄ならではの強みを出すために必要だと思うことは何ですか。（○はいくつでも）

1. 地域資源を活用した体験メニューの創出
2. 地域住民との連携
3. 他業種・企業・団体等との連携
4. 地域や行政、旅行会社との連携
5. わからない
6. その他（　　）

4

問16.「探究・課題解決学習」に資するプログラム開発にあたって課題と感じることは何ですか。（○はいくつでも）

1. 地域住民との連携や理解
2. 他業種・企業・団体等との連携
3. 旅行会社との連携
4. 行政との連携
5. 新たなプログラム開発にかける予算が不足
6. 専門的な知識が不足（従業員のスキルアップや資格取得）
7. 人材が不足している
8. 学校が求めているプログラムがわからない
9. プログラム開発をしたいが方法がわからない
10. 開発後の情報発信の方法・発信先がわからない
11. プログラムの需要がどのくらいあるのかわからない
12. わからない
13. その他（　　）

問17. 最後に、島しょ県ならではの沖縄教育旅行に関するご意見、ご要望がございましたら記入をお願いします。（自由記述）

本調査結果は今後の沖縄教育旅行商品造成支援に広く活用してまいります。

令和４年　月　日（　）までにご回答ください。

5